

II 部門別活動報告

緩和医療科

緩和医療科長 平野 拓司

「いつでも、どこでも、その人らしく。～磐井病院緩和医療科～」

歴史的には、『寿命が近づいてきた時の苦しみを和らげるため』に“緩和ケア”が発展してきました。しかし、現在は、『診断された時から、どの時期でも“苦痛を和らげること”』が、緩和ケアの基本とされるようになりました。

『磐井病院 緩和医療科』では、寿命が近づいた時はもちろん、抗がん剤治療中などでも、苦痛を和らげるお手伝いできれば、と考えています。“（基本的）緩和ケア”は、治療の先生方によって行われておりますが、症状緩和が困難な症例や、精神的な不安など、ゆっくり時間をとってお話をする必要がある患者さんについては、『緩和医療科』でもお手伝いをさせていただいております。また、大きな症状がない時期から受診していただくことにより、“緩和ケア＝末期”という『誤解』を解くことができるものと考えております。

『磐井病院 緩和医療科』では、人生の最終段階における苦痛緩和にも力を入れて、取り組んでいます。その時期をどのように過ごすかは、その人の、それまでの生き方を映しているのかもしれない。緩和ケア病棟のスタッフは、『その人らしく』、を大切にしています。悩み、苦しむことも、『その人らしさ』ととらえて、その苦しみに寄り添いながら、その中に一筋でも光が見えてくれば、と思っています。

緩和ケア病棟でも一般病棟でも、自宅でも施設でも、地域の医療機関などと連携しながらこの地域の緩和ケアを支えていければ、と考えています。状況に応じ、当科からの訪問診療も、地域と連携しながら、少数ですが、行っております。

（なお、“緩和ケア”の考え方は、「がん」に限らないのですが、“緩和ケア病棟”は診療報酬上、現在は、「がん（悪性腫瘍）」及び「A I D S（磐井病院では実績はありません）」の患者さんに限定されています。）

<診療実績>（平成30年度）

●緩和医療科外来

平成30年度の外来受診患者数は、のべ1,037名受診（1日平均 4.25名/平日244日）

※新患患者数17名（うち、他院からの紹介16名）

●緩和ケア病棟

平成30年度入院数 入院患者数207名、退院患者数185名、うち死亡退院患者数128名、1日平均入院患者数13.9名

●緩和ケアチーム

平成30年度の依頼患者数 94名

緩和ケア病棟入棟希望・緩和医療科外来受診希望の場合

主治医の先生が紹介を希望された場合や、患者さんが受診を希望された場合 →「磐井病院 地域医療福祉連携室」あてにご連絡ください。あるいは、直接担当医（平野拓司）宛にご相談いただいても構いません。

医療関係者の皆様へ

緩和ケア病棟の見学、緩和医療科での研修は、いつでもご連絡ください。ご相談の上、できるだけご希望に添って受け入れたいと思います。当院の緩和ケア病棟は「日本緩和医療学会認定研修施設」、日本ホスピス緩和ケア協会の認証制度の「認証」を受けています。

呼吸器科

呼吸器科長 駒木 裕一

H30 年度も常勤医 1 名で外来、入院診療を行っております。

主として気道疾患(気管支喘息、COPD)、感染症(肺炎、胸膜炎、抗酸菌症など)、腫瘍(肺癌、胸膜中皮腫、胸腺癌など)の診療にあたっています。両磐地区で肺悪性腫瘍の診断、治療を行える施設が当院を含め限られており、症例が集中しています。

<診療実績>

- ・外来患者延数 5,079 名
- ・入院患者延数 5,294 名
- ・気管支鏡 124 件
- ・胸腔ドレナージ 61 件
- ・胸腔穿刺 45 件
- ・化学療法 入院 54 件、外来 295 件

消化器科

消化器科長 菅野 記豊

本年度初めより、東北大学消化器内科から、前年度まで在籍された荒井壮先生の後任として、横山直信先生が赴任となった。横山先生も荒井先生同様下部消化管が専門である。荒井先生の仕事をしっかり引き継いでくれたおかげで、仕事の流れは非常にスムーズであった。感謝の念に堪えない。大学院修了後初めての赴任となり、今がまさに伸び盛りである。今後の更なる発展に期待している。

さらに、盛岡赤十字病院より、卒後 4 年の後期研修医として菅澤学先生が赴任となった。消化器内科分野における今まで以上に充実した研修を送るべく、当科を選んでくれたわけである。その意味で我々には重い責任が課せられたわけであるが、消化器内科医としての確かな実力をつけ最終的に独り立ちできるよう、細かな部分まで配慮の行き届いた指導をしてゆきたいと考えている。一方、菅澤先生にも、焦らず妥協せずじっくり腰を据えて研鑽に励んで頂きたいと期待する次第である。

以下が今年度当科で常勤医として勤務された消化器科医師名である。

菅野記豊	消化器科長
横澤聡	医療研修科長、内視鏡科長
小川千恵子	内科医長
本田純也	消化器科医長
横山直信	消化器科医長
菅澤学	後期研修医

<診療実績> 検査・治療件数（平成30年度）

上部内視鏡検査	2,557
食道・胃EUS	31
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	2
食道狭窄拡張術（拡張用バルーンによるもの）	41
食道ステント留置術	9
食道APC（止血）	0
食道APC（腫瘍切除）	0
内視鏡的硬化療法	9
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	14
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	10
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術・粘膜下層剥離術）	44
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ粘膜切除術）	11
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	5
内視鏡的消化管止血術	116
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	8
内視鏡的胃、十二指腸狭窄拡張術	18
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術）	34
胃アルゴンプラズマコアグレーション（止血）	9
胃アルゴンプラズマコアグレーション（腫瘍切除）	
小腸結腸内視鏡的止血術	18
小腸・結腸狭窄部拡張術（内視鏡によるもの）	3
小腸ファイバースコープ（カプセル型内視鏡）	5
小腸ファイバースコープ（その他）	5
下部内視鏡検査	1,450
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	303
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	25
下部消化管ステント留置術	15
大腸APC（止血）	1
注腸検査	3
肝TAE（TACE）	44
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）	4
内視鏡的胆道ステント留置術	13
内視鏡的胆道拡張術	13
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	47
内視鏡的乳頭切開術（胆道碎石術を伴うもの）	3
内視鏡的胆道結石除去術（胆道碎石術を伴うもの）	0

内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	21
胆嚢外瘻造設術	5
経皮的胆管ドレナージ術	7
経皮経肝胆管ステント挿入術	0
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ENBD）	1
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	3
大腸EUS	3
内視鏡的膵管ステント留置術	15
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	50
腹部エコー	1,489
造影超音波	7

循環器科

第1循環器科長 小野寺 洋幸

＜循環器救急診療＞

循環器疾患は救急患者が多いことが特徴です。当科は岩手県南の地域中核病院として専門的診療の必要な循環器疾患患者が来院、またはかかりつけの医療機関から紹介された場合、迅速に対応いたします。特に緊急性の高い急性心筋梗塞などに対しては24時間対応できるよう努力しております。

＜高度診療＞

心臓カテーテル検査を中心とした冠動脈疾患の精密検査、経皮的冠動脈インターベンション、ペースメーカー移植術などの高度診療を積極的に行い、エビデンスに基づいた質の高い医療を提供します。

＜動脈硬化性疾患の予防＞

二次予防の観点から動脈硬化の評価、食習慣・生活習慣の指導、糖尿病・高血圧症・脂質異常症など危険因子の管理・指導を行ない地域住民の健康増進をはかります。

＜病診連携＞

当科では上記のように救急診療や高度診療に力を注ぎたいと考えており、病状が安定した時点で紹介元や開業医の先生での治療継続を勧めております。なお、定期的な専門診療や病状が不安定化した際は当科で対応させていただきよう、連携を進めていきたいと考えております。

＜対象となる疾患＞

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧症、動脈硬化症 など

<施設認定>

日本内科学会認定教育関連病院、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

<診療実績> (平成 30 年度)

冠動脈造影	98	頸動脈エコー	100
経皮的冠動脈インターベンション	85	腎動脈エコー	13
経皮的腎動脈形成術	0	ホルター心電図	695
恒久的ペースメーカー移植・交換術	49	トレッドミル負荷心電図	301
大動脈バルーン・パンピング	13	心臓核医学検査	6
下大静脈フィルター留置術	1	冠動脈MDCT	46
心嚢ドレナージ	0	睡眠時ポリグラフィー検査	13
心エコー	1,576		

小児科

小児科長 丸山 秀和

<特徴>

当科は両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療の中核として一般外来、慢性外来、乳児健診、予防接種、時間外診療、および入院業務を行ってきております。診療応援をいただいております先生方にはこの場をかりて感謝申し上げます。

外来は、月・火・木・金曜日の午前中は一般外来を行っております。ここでは急性期疾患を中心とした診療を行っております。また、月曜日の午後は予防接種、水曜日は全日乳児健診（午前中は6～7ヶ月・9～10か月・1歳児健診、午後は1ヶ月健診）、火・金曜日の午後は慢性疾患外来の診療を行っております。

入院につきましては、気道感染症、急性胃腸炎等急性疾患や気管支喘息発作といった疾患の入院が多くを占めました。その他、熱性けいれん、てんかん、川崎病等様々な疾患の入院がありました。

両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療につきまして、慢性疾患外来や入院業務を中心とした同地域における中核的な役割を担った医療を今後とも継続して提供していきけるように心がけていきたいと存じます。

<診療実績> (平成 30 年度)

入院患者延数	5,184	外来患者延数	12,912
当年度入院	946	新患者数	3,677

新生児科

新生児科長 天沼 史孝

<特徴>

当院新生児科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州市から宮城県北(栗原市、登米、気仙沼)にわたる医療圏を有しています。

在胎 28 週からの新生児入院に対応しており、平成 23 年 4 月に岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営が開始されました。

より良い医療、安心、安全を提供するため週 1 回の新生児科、産婦人科および病棟スタッフとの周産期カンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。

<対象となる疾患>

早産児、低出生体重児、呼吸障害、感染症、新生児黄疸、低血糖症、先天性心疾患、染色体異常等の疾患

<施設認定>

日本小児科学会専門医研修関連施設

日本周産期・新生児医学会暫定研修施設

岩手県地域周産期母子医療センター

<蘇生法講習会>

毎年、1 回の日本周産期・新生児医学会認定の新生児蘇生法講習会(専門コース)を開催しており、平成 27 年からは研修医必修の講習会に位置づけられ初回の講習会を開催した。県内研修医や救命救急士、消防士の方にも参加して頂いています。今年度までに受講者の合計は 86 人となっています。

<診療実績> (平成 30 年度)

入院 164 人

超低出生体重児	3 人	極低出生体重児	2 人	低出生体重児	82 人
新生児黄疸	55 人	感染症	1 人	低血糖症	40 人
先天性心疾患	8 人	染色体異常	1 人	その他	0 人

外来 1,779 人(新患 59 人)

シナジス接種適応患児	85 人
その他、慢性外来(健診・予防接種など)	7,607 人

<スタッフ紹介>

医師名	専門分野	主な資格
天沼 史孝	新生児医療	日本小児科学会認定医・専門医 認定小児科指導医
		日本周産期新生児医学会 新生児蘇生法 NCPR インストラクター
		日本DMAT隊員
		ICD制度協議会 ICD(感染コントロールドクター)
		厚生労働省 臨床研修指導医

外科

外科長兼内視鏡外科長 阿部 隆之

一般外科、消化器外科に関するすべての分野に精通している医師がそろっており、さらに、常に最新の手術や管理を取り入れ、治療成績の向上を目指すとともに、開業医の先生方と密に連携を取り、地域に密着した医療に取り組んでおります。

特に当院は、「がん連携拠点病院」を標榜しており、両磐地区の「がん」診療の中心です。その中でも外科は、低侵襲手術、最新の化学療法、放射線治療など、「がん」の集学的治療の司令塔的役割を担って、多様な「がん」に対応しています。

- ① 副院長兼乳腺内分泌外科長、佐藤耕一郎が乳腺専門医資格をもち、当院形成外科専門医との協力で、乳癌術後乳房再建が可能な病院です。岩手県では当院と岩手医大だけです。
- ② 低侵襲消化器内視鏡手術が可能。胃癌、大腸癌、食道癌、肝腫瘍、肺腫瘍の鏡視下手術が可能であり、より低侵襲な手術を提供できます。
- ③ 東北大学腫瘍内科、石岡千加史教授、東北医科薬科大腫瘍内科、下平秀樹教授が月2回の腫瘍内科外来を開き、より最新の化学療法を提示いただけます。また、難治性の腫瘍については、東北大学の治験にも参加しております。
- ④ 乳癌については、月2回、東北大学総合外科乳腺内分泌外科、石田孝宣教授、同、宮下謙講師の診察が行われ、東北大学病院と同等レベルの診断治療を提供できます。
- ⑤ 化学療法に経験のある医師を揃え、現在、話題の免疫チェックポイント阻害薬についても多数の患者への使用経験をつんでおります。
- ⑥ 血管外科医が転勤となったが、胆沢病院血管外科と協力し、急性の血管病変にも対応します。

<診療実績> 2018年手術件数(2018年1月~2018年12月) (単位:件)

総手術件数	783	腸閉塞	11 (5)
緊急手術	343	胃癌	5
成人ヘルニア【15歳以上】	101	全摘	17 (4)
小児ヘルニア	0	部分切除	0
		GIST・その他	0

内 分 泌	甲状腺悪性腫瘍	11
	甲状腺良性腫瘍	4
乳 腺	乳癌（温存）	11
	乳癌（全摘）	22
呼 吸 器	肺悪性腫瘍	1（1）
血 管	血行再建（IVR）	1
	大動脈瘤	0
	下肢静脈瘤	0
胆嚢摘出		100（76）
虫垂切除		38（38）

食 道 癌		3（2）
結 腸 癌		58（23）
直 腸 癌		43（22）
肝 臓	悪性腫瘍	6（3）
膵 臓	膵頭十二指腸切除	1
	膵臓良性	2
痔核手術		15
汎発性腹膜炎		7（2）

※（ ）内は内視鏡手術の件数

今後、

i) 進行癌についても、十分な根治性を維持しつつ、内視鏡手術適応を拡大し、より低侵襲手術を提供するため、外科医の技術修練を行ないます。

ii) 高齢患者の手術にも低侵襲な治療を選択し、かつ、地域の医療機関、介護施設との連携を密にし、患者の意に沿う治療法、治療場所を提供します。

iii) クリニカルパス使用の拡大、および、さらなる多職種連携により、術前術後患者の早期回復を目指します。

iv) 2019年より入退院支援センターの稼働が始まり、より患者様のニーズに沿った入院サポートおよび退院後の支援が行えるようになりました。

整形外科

整形外科長 中山 明里

<特徴>

整形外科ではいわゆる「運動器」の疾患・外傷を扱っています。首から下、足の先までの骨、関節、筋肉、神経などが対象になります。

現在の常勤医師は4名で、整形外科専門医が2名在籍しています。

交通事故、労災事故、転倒などによる外傷は基本的にすべて受け入れており、良好な機能回復をめざして手術を行っています。

整形外科も細分化してきていますが、専門医が得意とする分野は、

- ・人工股関節置換術
- ・超音波による乳児の股関節脱臼の診断
- ・膝関節の関節鏡視下手術
- ・肩関節の関節鏡視下手術などです。

この他の専門分野では、東北大学病院等からの応援を得て、可能な限り当院で対処するようにしています。

年間の手術数は、2018年度が488件でした。最も多いのは高齢者の転倒による大腿骨頸部骨折です。原則として手術を行っています。高齢者は内科的な疾患を合併している人も多いのですが、他科の協力も得て、できる限り安全に手術を行うように努力しています。またこの骨折ではリハビリを含めて一般的には2～3か月の入院が必要になりますが、急性期病院の当院では長く入院することが困難です。そこで、「大腿骨頸部骨折地域連携パス」を導入し、地域のリハビリ入院ができる複数の医療機関等と連携し、より高いレベルまで回復できるように取り組んでいます。

外来診療は完全予約制ですが、予約されていても急患対応、緊急手術などでお待たせすることが多々あるようです。また入院病床が少ないため、日常生活が不自由な状態での通院治療や早期退院をお願いせざるを得ない場合があります。諸事情をご賢察のうえご理解とご協力をお願いいたします。

脳神経外科

副院長兼脳神経外科長 齋藤 桂一

<特徴>

当科では手術の必要な脳疾患や頭部外傷を中心に、広く地域医療に貢献することを目標としています。

<対象となる疾患>

脳卒中のうちくも膜下出血と脳出血、外傷は脳挫傷などの頭蓋内出血、慢性硬膜下血腫が入院患者の多数を占めます。外来診療では手術後の患者さんの経過観察や、かかりつけ医の先生方からの紹介による脳疾患の精査を行い、神経膠腫などの大がかりな治療が必要な患者さんには大学病院などへの紹介も行っています。また、専門外来として難治性てんかんの患者さんの治療を行っています（東北大学てんかん科：1ヶ月に1回）。

<設備>

診断機器：MR I、CT、DSA、ガンマカメラ、脳波計

手術機器；手術用顕微鏡（蛍光血管撮影つき）、神経内視鏡、定位脳手術装置

<手術件数>（平成30年度）

脳腫瘍摘出術	2
脳動脈瘤クリッピング術	9
脳内血腫摘出（吸引）術	2
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	68
水頭症手術	2
外傷性頭蓋内出血（開頭）	0
脳神経血管減圧術	0

<施設認定>

日本専門医機構研修プログラムによる研修施設（関連施設）

<スタッフ紹介>

医師名	役職	資格等
齋藤 桂一	副院長兼脳神経外科長	脳神経外科専門医
藤原 和則	脳神経外科医長 第二リハビリテーション科長	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医
高橋 昇	脳神経外科医長	脳神経外科専門医
鮫名 勉	非常勤	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医

形成外科

形成外科長 本庄 省五

<特徴>

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損あるいは整容的な不満足に対して、「あらゆる手法や特殊な技術」を駆使し、機能のみならず形態的にもより健全に、より美しくすることによってみなさまの生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する、外科系の専門領域です。

当院の形成外科は、県内では岩手医科大学に次いで患者数が多く、日本形成外科学会の研修認定施設に認定されています。

<対象となる疾患>

口唇裂口蓋裂症・眼瞼下垂症などの顔面先天異常、手足の先天異常、顔面骨骨折などの顔面外傷、皮膚悪性・良性腫瘍の切除と再建、切断指再接着を含む手の外科、褥瘡・難治性潰瘍、熱傷、癩痕拘縮・ケロイドなど、関連各科・大学病院と協力・連携を保ちながら幅広く診療を行っています。

<診療内容> 昨年の年間手術数は 251 例

★口唇裂・口蓋裂症は、周辺医療機関の認知度の上昇とともに患者数も増加傾向にあります。大学病院での約 20 年の経験を踏まえ積極的に治療にあたっています。関連各科と協力し、岩手医科大学の矯正歯科で生後早期から術前顎矯正を行い、生後 3 ヶ月前後で口唇形成術、1.5 歳前後に口蓋形成術、10 歳前後で歯槽裂部骨移植、高校生以降に最終的な修正を行っています。

★眼瞼下垂症は先天的な下垂の治療はもとより、最近はお高齢の方やコンタクト・レンズの長期間の使用による下垂症が増加してきています。まぶたが開きにくくなるため額にしわを寄せ、眉毛を挙げてものを見ようとするので、特有の顔貌となります。またこれが、肩こりや高血圧など他の疾患の誘因になっているとも言われています。比較的低侵襲の手術で治療効果が大きいので、高齢者の方にも施行可能です。

★顔面外傷の治療は、軟部組織損傷では出来るだけ目立つ傷跡が残らないように治療しています。顔面骨骨折でも皮膚切開線が出来るだけ目立たないように配慮し、骨折固定用プレートはあとで抜釘する必要のない、溶けて無くなる吸収性プレートを積極的に使用しています。

★手足の先天異常では、1歳前後の小児の患者さんが中心となるため、安全な治療を第一に心がけています。また合指（趾）症では術後整容的に問題となる植皮術の必要のない皮弁法を用いています。

★手足の外傷は軟部組織損傷、骨折、腱損傷が多く、切断された指を手術用顕微鏡下に再接着する切断指再接着術にも対応しています。

★皮膚・皮下組織腫瘍は良性97例、悪性52例を治療しました。特に顔面の皮膚悪性腫瘍は、外科的治療による生存率の向上はもとより、できるだけ健常に近い顔貌になるよう形成外科的な手法を駆使して再建に努めています。

★褥瘡・難治性潰瘍の治療は、手術症例のみならず高齢者の褥瘡、内科的潰瘍を最新の創傷治療理論に基づく治療で成果を上げています。また、褥瘡予防対策委員会を設け、看護科、薬剤科、栄養科、栄養サポートチーム、リハビリ科と協力して活動し、予防にも力をいれています。

<施設認定>

日本形成外科学会 教育関連施設（専門医取得可能）

皮膚科

皮膚科医長 荒川 伸之

<紹介>

先端医学技術を駆使して診断にあたる時代ですが、皮膚疾患の診断は“百聞不如一見”。まずは目で診て、手で診る（触れる）、耳で診る（聞く）、あるいは嗅いでもみるという五感が最たる診察道具です。生まれてから人生を全うするまでのあらゆる年齢層の頭のとっぺんから、足のつま先までの皮膚病変を扱います。

外来ではアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などの湿疹皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡などの水疱症、皮膚悪性腫瘍、伝染性膿か疹、帯状疱疹、カポジ水痘様発疹症などの感染症、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎などの膠原病、さらには乾癬、薬疹、脱毛症、真菌症など多岐にわたる皮膚科全般疾患を診療します。薬物療法の他に紫外線療法、アレルギー検査、皮膚生検など随時行っています。

<診療実績>（平成30年度）

有棘細胞癌	20件
悪性黒色腫	16件
その他の皮膚がん（基底細胞癌・Paget病など）	108件
1日平均外来患者数	33.9人
1日平均入院患者数	3人

泌尿器科

泌尿器科長 竹田 篤史

<特徴>

当泌尿器科では、主に腎臓、副腎、膀胱、前立腺、精巣などの泌尿器系臓器に生じたがんや結石、前立腺肥大症、小児の尿路性器先天性疾患を診療しております。腎臓癌の体腔鏡（腹腔鏡）手術や前立腺肥大症の内視鏡手術には特に力を注いできましたが、平成29年に新たに高出力ホルミウムYAGレーザーが導入され、従来は対応困難だった高難度尿路結石の内視鏡手術や、重症前立腺肥大症の低侵襲手術が可能となり手術件数も順調に増加しています。

<対象となる疾患>

前立腺肥大症、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、腎結石、尿管結石、膀胱結石、副腎腫瘍、停留精巣 など。

※タンパク尿、糸球体腎炎、血液透析など腎内科領域や腎不全に関する専門的診療は行っておりません。

<診療内容>

1 前立腺肥大症

高齢男性の排尿困難の多くは前立腺肥大症によるものです。前立腺超音波検査、残尿測定、前立腺癌のスクリーニング検査などで病状を正確に把握した後に、症状に応じて経過観察、内服治療、手術療法を行います。

前立腺肥大症の手術としてレーザーを用いた HoLEP 手術を積極的に行っています。HoLEP 手術は従来の内視鏡手術に比べて出血が少なく体への負担が少ない上に治療効果も高く、国内で徐々に普及しつつありますが、県内で施行可能な病院は現時点ではまだまだ非常に限られています。

2 腎癌／腎盂尿管癌

当科には2010年4月より県内には数少ない日本泌尿器科EE学会 腹腔鏡技術認定医が着任し、腎癌／腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術を本格的に導入しました。腹腔鏡腎手術は従来の手術に比べて体への負担が少なく術後の回復も早いと、ほぼ標準的な術式として普及しています。

3 膀胱癌

膀胱癌は癌進行の程度によって治療方針が大きく変わります。早期癌は簡便な内視鏡手術のみで治すことができますが、癌が進行して大きくなってくると抗癌剤、放射線治療、開腹手術、苦痛緩和療法などのさまざまな方法を組み合わせる必要があり、治療期間も長くなります。磐井病院泌尿器科では、「最小の負担で最大の治療効果」をあげられるよう、さまざまな手術・治療法を駆使して治療に臨んでいます。

4 前立腺癌

当科では早期診断と早期癌に対する根治手術／放射線治療に力を入れています。また最新の低侵襲治療がふさわしいと思われる患者さんでは、必要に応じて近隣または県内外の各病院などを紹介可能です。

5 腎結石、尿管結石

近年の結石治療のめざましい進歩に伴い、当科でも平成 29 年より最新式の高出力レーザー機器を用いた内視鏡手術を導入し、f TULやPNLなど標準的な内視鏡手術に加え、最先端のECIRS手術も可能となりました。レーザー導入後の結石年間手術件数は約 40 例以上で、レーザー導入前の 3～4 倍で推移しています。

6 小児包茎

近年では小児包茎のほとんどは手術しなくても成長と共に自然軽快することがわかってきました。当科でもお子さんへの不要な手術を極力避ける方針で外来治療を行っています。

7 小児停留精巣

停留精巣とは検診などで指摘される精巣位置の先天的な異常です。生後一年までは自然軽快を期待して経過観察しますが、1 才をすぎても自然軽快しない場合は入院手術をお勧めします。当院での手術は小児育成医療の医療費助成の対象になります。（入院前に手続きが必要です。）

<施設認定>

日本泌尿器科学会専門医教育施設

<診療実績>（平成 30 年度）

疾患名	術式	件数	疾患名	術式	件数
膀胱癌	尿路内視鏡手術	39	膀胱結石	尿路内視鏡手術	4
	開腹手術	3	腎結石	尿路内視鏡手術	17
腎癌/腎盂尿管癌	腹腔鏡手術	5	小児停留精巣	精巣固定術	4
	開腹手術	1	真性包茎	包茎手術	0
前立腺癌	開腹手術	4	陰嚢水腫	水腫根治術	5
	腹腔鏡手術	0	尿膜管	腹腔鏡手術	1
精巣癌	根治手術	0		その他手術	0
精巣捻転	精巣固定術	1	その他	開腹手術	16
陰茎癌	根治手術	0		尿路内視鏡手術	62
前立腺肥大症	HoLEP	18		その他手術	26
尿管結石	尿路内視鏡手術	29			

産婦人科

周産期医療科長 菅原 登

<特徴>

産婦人科は女性生殖器（子宮、卵巣、卵管、膣）、および女性生殖器に関連した内分泌器官（視床下部、下垂体、乳房）を扱う診療科です。

現在、常勤医は産婦人科専門医 4 名、産婦人科専攻医 2 名の 6 名体制となっています。

当院産婦人科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県水沢地方から宮城県北（栗

原市、登米市の一部) にわたる総人口約 30 万人の医療圏を有しています。

産科分野においては新生児科の協力のもとに妊娠 32 週以降の分娩に対応しています。また、妊娠・分娩・産褥期間の安心、安全を提供するために週 1 回の産婦人科、新生児科、および病棟スタッフとのカンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。

平成 23 年 4 月からは岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営を開始しております。

婦人科分野においては良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応が可能です。良性腫瘍の治療においては、ほぼ腹腔鏡下手術を行っており、1kg を越える子宮筋腫に対しても腹腔鏡下子宮全摘術を行っています。悪性腫瘍に対しては手術や化学療法のみならず、緩和医療にも力を入れています。

<対象となる疾患>

産科：正常、異常によらず妊娠にかかわる全般および妊娠 32 週以降の分娩。

婦人科：感染症、腫瘍、月経困難症、内分泌異常、更年期障害、性器脱等の診断と治療。

<施設認定>

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）暫定研修施設

岩手県地域周産期母子医療センター

母体保護法指定施設

<診療実績>（平成 30 年度）

手術件数：総手術件数 358 件（開腹手術 262 件、腹腔鏡下手術 81 件、経膈手術 15 件）

分娩：763 件（うち帝王切開分娩 190 件、双胎 4 件）

放射線治療科

放射線治療科長 阿部 恵子

<特 徴>

放射線治療科は、2015 年 7 月より常勤（1 名）体制となりました。院内紹介のみでなく、近隣の病院からも幅広くご紹介をいただいております。直線加速器（リニアック）による X 線、電子線を用いた放射線治療（体外照射）のほか、骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する注射液（塩化ラジウム）も投与可能です。今後も地域のがん治療に貢献すべく、放射線技師、看護師とともに協力しながら日々診療に励んでいく所存です。

<スタッフ紹介>

1 医師名（職名）等

阿部 恵子 放射線治療科長 平成 17 年度東北大学卒

2 専門分野

X 線、電子線による体外照射

3 主な資格等

日本医学放射線学会専門医

<診療実績>放射線治療患者数(2018年1月～2018年12月)

乳癌	49件
前立腺癌	15件
肺癌	16件
食道癌	5件
膵癌	4件
骨転移	22件
脳転移	9件
その他	21件
計	141件

画像診断科

画像診断科長兼放射線科長 照山 和秀

<特徴>

画像診断科では、CT・MRI・血管撮影・核医学検査などの画像診断全般、画像ガイド下による生検やドレナージ、カテーテルを用いた血管内治療を1名の診断専門医（常勤）が担当しています。

<スタッフ紹介>

1 医師名（職名）等

照山 和秀 画像診断科長兼放射線科長 平成6年度東北大卒

2 専門分野

- (1) カテーテルを用いた血管内治療。(外傷や消化管出血、不正出血などに対する動脈塞栓術、透析シャント狭窄に対する血管拡張術など)
- (2) 画像ガイド下での生検やドレナージ。
- (3) CT・MRI・核医学などの画像診断。

3 主な資格等

日本医学放射線学会専門医

<2018年4月1日～2019年3月31日までの読影件数>

CT	4,257件
MRI	1,251件
シンチ	287件

アンギオ	50 件
一般撮影	8 件
計	5,853 件

眼科

眼科医長 今泉 利康

<特徴>

眼科は視覚を担う感覚器を扱う専門領域です。眼瞼・眼窩・眼球・外眼筋・視神経と分野も多岐にわたります。健康で自立した生活を送るためには視覚情報は不可欠なものであり、高齢化が進行する現代社会においては、その役割はますます重要になっております。今後も地域の皆様の視力の向上に貢献できるように、視能訓練士、看護師とともに励んで参ります。

<対象疾患>

白内障 緑内障 網膜疾患 屈折異常 ドライアイ 他

<診療内容>

視力検査 前眼部検査 眼底検査 眼圧検査
レーザー治療 白内障手術 硝子体注射

<診療実績>

白内障手術 85 件 後発白内障手術 96 件 網膜光凝固術 38 件
硝子体注射 33 人

耳鼻いんこう科

耳鼻いんこう科長 東 賢二郎

<診療科の特徴>

当科は平成 30 年 4 月から常勤体制となり、耳鼻いんこう科医 2 人で診療をおこなっております。常勤体制になったことで、入院や手術加療も可能となり、咽喉頭の炎症性疾患や副鼻腔手術、扁桃摘出術といった手術など、一般耳鼻科疾患を中心に扱っています。

悪性疾患に関しては、岩手医科大学、東北大学と連携し診療にあたっており、緊急手術が必要となる頸部膿瘍などの対応もしております。

<対象となる疾患>

耳：難聴、耳鳴、耳性めまい、中耳炎など
鼻：アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、嗅覚障害など

口腔、咽喉頭：扁桃炎、嗄声、味覚障害、口内炎など

頭頸部腫瘍：（口腔、咽頭、喉頭、鼻腔、唾液腺、頸部の良性・悪性腫瘍）

その他：顔面神経麻痺、唾石症、嚥下障害など

〈診療実績〉

涙嚢鼻腔吻合術	3
耳介血腫開窓術	1
外耳道異物除去術	3
先天性耳瘻管摘出術	4
鼓膜チューブ挿入術	16
鼻腔粘膜焼灼術	38
鼻内異物摘出術	4
鼻甲介切除術	12
鼻茸摘出術	4
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	102
鼻中隔矯正術	19
扁桃周囲膿瘍切開術	6
咽頭異物摘出術	5

アデノイド切除術	13
口蓋扁桃手術（摘出）	33
深頸部膿瘍切開術	1
気管切開術	6
声帯ポリープ切除術	2
喉頭腫瘍摘出術	1
誤嚥防止手術	1
口腔底膿瘍切開術	2
舌腫瘍摘出術	1
口唇腫瘍摘出術	2
唾石摘出術	4
顎下腺摘出術	1
耳下腺腫瘍摘出術	8

〈施設認定〉

耳鼻咽喉科専門研修連携病院（東北大学プログラムに参加し専門医取得可能）

歯科口腔外科

第2 歯科口腔外科長 中山 温史

〈特徴〉

当科は岩手県南地域の中核病院として、大学病院や関連病院、また地域の歯科医師会等と連携しながら各種疾患に対応しております。

外来診療や全身麻酔下での手術のほか、歯科治療恐怖症の患者様に対しましては、麻酔科と連携しながら静脈内鎮静法を積極的に取り入れ、治療に対する不安軽減に努めております。また有病者（他科で治療を受けている方）に対しましても専門知識や治療経験を活かして対応しておりますので、安心して治療を受けていただくことができます。

さらに、周術期口腔機能管理として、がん等に係わる手術または放射線治療、化学療法や緩和ケアを実施する患者様に対しての治療も行っております。

☆当科は日本口腔外科学会より認定関連研修施設の施設認定を受けております。

<対象となる疾患>

埋伏歯等、顎顔面損傷、炎症性疾患、アレルギー疾患、感染症、口腔粘膜疾患、のう胞および類似疾患、腫瘍および類似疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経系疾患、歯科治療恐怖症など

歯科口腔外科診療実績（平成30年度）

外来患者数	5,183名	全身麻酔下手術数	78件
入院患者数	417名	静脈内鎮静法下手術数	48件

麻 酔 科

麻酔科長兼中央手術科長 須田 志優
麻酔科医長 叶城 倫子

<診療科紹介>

麻酔科では術中管理を中心に、周術期全般に渡る患者の全身管理を担当科と協力して行っております。

平成30年は自施設の研修医7名に加えて、岩手県立大船渡病院から2名、同県立久慈病院から1名、そして東北大学病院から1名の研修医による麻酔研修を、さらに奥羽大学歯学部から歯科医師1名の医科麻酔科研修を受け入れました。今後も岩手医大・県立中央病院・東北大の基幹研修施設・関連研修施設として専攻医・研修医・歯科麻酔科医の育成等に励みたいと考えております。

上記と併せて、救急救命士等の研修を行ない、平成30年は一関市消防本部、久慈広域連合消防本部及び栗原市消防本部に所属する救急救命士等に対して、就業前病院実習（1名）、再教育実習（17名）、気管挿管実習（2名）、ビデオ喉頭鏡挿管実習（6名）、救急隊員資格者病院実習（10名）を受け入れました。

<診療実績>（2018年1月～2018年12月）

麻酔法	症例数
全身麻酔（吸入）	243例
全身麻酔（TIVA）	910例
全身麻酔（吸入）+硬・脊・伝麻	74例
全身麻酔（TIVA）+硬・脊・伝麻	145例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	32例
硬膜外麻酔	4例
脊髄くも膜下麻酔	2例
伝達麻酔	3例
その他	139例
合 計	1,552例

＜学会認定施設＞

日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院

救急科

救急科長 片山 貴晶

＜診療科紹介＞

救急科では加藤博孝院長、中村紳副院長、および片山貴晶救急科長を指導医として、後期研修医、二年次研修医及び一年次研修医とともに、主に救急外来を受診された患者様の診療および入院管理を担当しています。入院患者には急性薬物中毒や外傷の患者様も多く、少ない人数で日々多忙を極めております。当地域の医療事情を鑑みて、薬物中毒や外傷、熱傷など専門的な診断・治療が必要な急性期疾患はもちろんのこと、不明熱や専門的治療が必要のない肺炎や尿路感染症などの急性疾患や心不全などの慢性疾患、当院に常勤医師不在の血液、腎・内分泌疾患など、また社会的に入院が必要な高齢の患者様の看取りの含めた入院管理など幅広く担当しております。

＜診療実績＞（平成 30 年度）

2018 年の入院患者数：390 人
2018 年の入院患者死亡数：56 人
2018 年の救急車・ドクターヘリによる患者収容件数：2,711 件
2018 年の救急外来での心肺停止症例の治療実績：85 人

＜学会認定施設＞

日本救急医学会救急科専門医指定施設

日本DMAT指定施設

神経内科

第1神経内科長 川守田 厚

＜特徴＞

当科は今年度まで診療科名を神経内科と標榜していたが、次年度より学会の方針により診療科名が脳神経内科に変更される。岩手県南、宮城県北の総合病院で神経疾患の救急対応をしているのは当院だけであり、そのため当科の入院患者の大部分は脳血管障害、けいれん、意識障害などの救急患者で占められている。

その一方で外来はパーキンソン病、てんかんなど専門知識を必要とする慢性疾患の患者が多く、他院に診療依頼をすることが困難なことが多い。最近では認知症の診断、治療の依頼が多くなり、院内でも認知症サポートチームの一員として活動している。

<対象となる疾患>

代表的な疾患は以下の通りです。

脳血管障害

認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、血管性認知症など）

脳変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）

脱髄疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）

頭痛

てんかん

脳炎

髄膜炎

眼瞼痙攣（がんけんけいれん）

片側顔面痙攣（けいれん）

末梢神経障害（ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎など）

筋疾患（筋炎、筋ジストロフィーなど）

脊髄疾患

<診療内容>

外来受診には基本的に紹介状が必要となります。CT, MRI 等の検査は検査日を予約して受けていただきます。筋電図、神経伝導速度の検査は毎週火曜日に行っています。外来診療は担当医師が1人で行っております。急患の対応等で予約時間内に診察が困難な状況になることがありますのでご理解をお願いします。

<施設認定>

日本神経学会准教育関連病院

<診療実績>（平成30年度）

区分		人数・件数
患者	入院（延べ）	2,939 人
	退院	343 人
	外来	5,123 人
	新患	379 人
検査・治療	t-P A	0 件
	ボトックス	34 件
	M R I	1,208 件
	C T	1,079 件

総合診療科

総合診療科長 加藤 博孝

2017年1月より総合診療科の外来を開設しました。

診療日程等

○毎週木・金, 9:00-12:00, 完全予約制, (AU-B)
現在通院している医療機関の診療情報提供書が必要です。

担当医師

総合診療科長 加藤博孝(院長兼務)

診療対象

- 診療科を特定できない症状・疾患の患者さん
- 複数の健康問題をもった患者さん
- 禁煙外来
- 予防接種(小児以外の不定期なもの)
- 感染症, 慢性疼痛(原因のわからない痛み)
- 内痔核などの肛門疾患

※脱出する内痔核に対する内痔核硬化療法を局所麻酔, 1日入院で行っている

- がんに関する相談(セカンドオピニオンを含む)
- その他, 原因不明の改善しない症状の患者さん

主な診療実績(2018年度)

- 禁煙外来初診患者 12人
- 新患者数 49人

手術件数(2018年度)

- 内痔核硬化療法, 痔核手術 24件

岩手県南部総合診療医養成プログラムの基幹施設

http://www.iwai-hp.com/media/3/20171011-2_ver6_h29_8.23_.pdf

磐井病院を基幹施設として、岩手県立病院である大東病院・千厩病院・高田病院と一関市国保藤沢病院の5病院を主たる研修施設とするプログラムです。

地域医療を担う総合診療医、病院総合医、救急の得意な総合医など、個々のニーズに応じて様々なタイプの総合医を養成します。僻地であり、医師不足の一関市の地域で専攻医の活躍できる場は多く、受け入れにより医療の維持・継続・地域基幹病院の負担軽減も目指しております。また、東北大学病院との連携システムを使って、臨床研究の指導や総合診療関連の講義を受講できます。修了後は、病院総合医や救急医、地域医療の指導者としての活躍が期待されます。

看護科総括

総看護師長 平澤 智子

1 看護科概要

- 1) 看護科理念 「その人らしさを大切にした優しさと信頼のある看護の提供」
- 2) 入院基本料：一般病棟：7対1入院基本料、 5病棟：緩和ケア病棟入院料1
看護体制看護単位および病床数：8看護単位 315床（結核病床 10床）
- 3) 看護提供方式：パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）
- 4) 認定看護師、資格等
専門看護師：がん専門看護師1名
認定看護師12名：認定看護管理者、感染管理、糖尿病看護、皮膚排泄ケア、救急看護、がん性疼痛看護、手術室看護、乳がん看護、がん化学療法看護、新生児集中ケア各1名、緩和ケア2名
- 5) 各種専門分野からの認定：アドバンス助産師13名、ストーリーナビリテーション講習会修了12名、臨地実習指導者31名、看護研究指導者12名、消化器内視鏡技師7名等
- 6) 看護研究院外発表：16題
- 7) 看護師等学生の受け入れ 5校：県立一関高等看護学院、岩手県立大学助産学部
一関医師会付属准看護高等専修学校・看護専門学校、
岩手医科大学緩和ケア認定看護師教育課程
- 8) ふれあい体験・職場体験・サマーセミナー、インターンシップ：体験者85名
- 9) 看護の魅力発信活動：一関高等看護学校、一関第二高等学校等、就職説明会、新採用者説明会、県立大学助産学科視察受け入れ
- 10) 地域連携等の活動：出前講座7回、施設訪問48施設、両磐圏域教育研担当者情報交換会、両磐地区県立病院退院支援担当者会議、一関地区退院支援・看護管理者情報交換会

2 平成30年度活動とその成果

重点取り組み事項は、①看護ケアの充実を図る ②多職種と連携し、患者家族に寄り添った継続看護を実践する ③組織の一員として働きやすい職場づくりに参画する とし、BSCの4つの視点から事業計画を策定し活動した。

【顧客の視点】

- (1) 患者満足度調査は、基本的な接し方は不満・やや不満が2.6%以下（目標値6.0%以下）、満足・やや満足では、84%（目標値75%以上）で前年度よりよい評価となった。看護科退院時アンケートでは、感謝の割合は84.7%で感謝や励ましの言葉が看護師自身のやりがいや達成感につながった。ご意見・提言を受け、倫理カンファレンス、リフレクション、マインド研修など行い、安全で安心な療養環境づくりに向け他部門と共に改善を図った。県立病院看護科で実施した看護職員満足度調査（5点満点）では、満足度平均点3.22点（前年度3.26点）、患者家族からの感謝や同僚・上司からの承認のメッセージが満足度を高める要因となっている。看護ケア充実に向けて取り組みを重ねたことやPNSで自己の看護実

践に自信を持てる割合も増加した（40→49%）

- (2) 認知症ケアでは、プロジェクトチームが中心となり院内デイケア、入眠ケアとしての足浴を前年度から継続して実施した。南光病院から毎月 1 回認知症看護認定看護師から実務指導を受けていたが、8 月より認知症看護認定看護師・精神科認定看護師が交代で兼務発令となった。9 月から認知症ケアチーム（オレンジサポートチーム）が発足し、毎週のラウンドでのアドバイスや認定看護師にタイムリーな相談ができる環境となったことで看護師の対応能力が向上した。南部地区看護師研修において認知症ケアを継続して取り組み、事例検討し発表会を通して事例を共有することで認知症高齢者を生活者としてみる視点を持ちケアの幅を広げることに繋がった。
- (3) 専門・認定看護師の活動では、各分野の認定看護師が認知高齢者や褥瘡ハイリスク患者等に対してより安全に治療やケアを受けることができるよう関わるが増えた。連携した関わりについて研修会でプレゼンテーションしたり部署での実践でスタッフからの相談も増えた。スタッフのアセスメント力を高めるとともに、患者にとってより良いケアを考える機会となっている。
- (4) 患者支援センターを6月に立ち上げ、入院早期からの退院調整促進、入院支援開始による外来・病棟看護師の負担軽減を進めた。地域の各施設に設置・活用について広報するとともに、MSW・ケアマネージャー、訪問看護師など関連職種との連携をすすめた。（地域との退院前カンファレンス 181 件、入院支援 232 件、入院支援加算 146 件）
- (5) 「お母さん・赤ちゃんに優しい病院（BFH）」を目指し、母乳育児推進委員会が中心となって活動を継続し、BFH 認定に向け全職種での理解と協力を得て書類審査を通過することができた。次年度の訪問審査受審に向けて取り組みをすすめた。

【財務の視点】

- (1) 自施設の経営改善に向けた看護科の取り組みとして以下の取り組みを行った。
 - ①入院支援加算（小児加算、入院時支援加算）：パス使用者から開始し、パス以外の患者に拡大していくために入院支援指示書を新たに作成した。
 - ②重症度、医療看護必要度加算Ⅱ：10 月からⅡで算定。監査にかかる時間が短縮できた。
 - ③認知症ケア加算Ⅰ：4～8 月はⅡで算定したが、認知症看護認定看護師・精神科認定看護師の配置により 9 月からⅠ算定。総合入院体制加算 3 申請の足がかりとした。
 - ④乳腺炎重症化予防ケア・指導料：アドバンス助産師の活用で算定開始。
 - ⑤院内トリアージ実施料：トリアージシステム活用
 - ⑥分娩介助料、妊婦健診、新生児管理料：市内の分娩施設が 1 カ所減り分娩数が増加した。以上の取り組みで第 3 四半期までに 31,402,456 円の増収となった。

【内部プロセスの視点】

- (1) インシデント 0 レベル 25.7%、レベル 3a 以上の誤薬発生率 0.01%、転倒転落率 0.18%、患者誤認レベル 3a 以上 0.01%。小児の転倒転落防止 DVD を独自に製作し入院時活用した。感染予防対策では、廃棄物処理過程を見直し環境改善した。ICT チェック票 a 項目の割合は、93.3%。自部署環境ラウンドにリンクナースが参加することが人材育成につながった。
- (2) 看護援助が特に必要な時間帯を考慮し全部署で看護師・看護補助者の時差出勤を見直した。

夜勤専従看護師、看護補助者の夜勤・遅番対応、PNS の推進、業務応援体制、看護事務補助者の活用拡大など業務改善を行い、超過勤務時間は前年度比減であった。

【学習と成長の視点】

- (1) 教育プログラムに基づき、新人教育、各ステップ研修を実施。ラダー評価は、B評価以上95%で目標達成。e-ラーニングを各ステップの研修や部署内研修、看護補助者の研修に活用した。新人ローテーション研修に他部署研修を取り入れることで技術の習得が進んだ。また、他部署の新人を受け入れることでスタッフの意識が変化し皆で育成していく環境づくりの一助となった。

3 今後の課題

- 1) 入院支援センターにおける入院支援拡大とスタッフの育成
- 2) 看護提供システムPNS定着
- 3) 働きやすい職場づくりと時間管理
- 4) 総合入院体制加算3算定

外 来

看護師長補佐 杉澤 祐子

1 概要

標榜診療科 : 21

スタッフ数 : 看護職員 66 名 (看護補助者 8 名含)

夜勤体制 : 16 夜勤 当直

2 一日平均患者数 : 508 名

3 活動目標の取り組みと結果

《 外来看護目標 》

- ① 患者さんの思いに寄り添い、信頼と満足のいく医療を目指します
- ② 多職種で連携し、安全・安心で質の高い医療を目指します。

【顧客の視点】

- (1) 待ち時間対策として、中待合のラウンドを行ない、患者・家族へ声をかけ、対応した。
- (2) ストーマ外来では全症例カンファレンス実施、患者や家族指導の他に、地域のケアマネージャーや入所施設・訪問看護とのケア方法連携を図るため、写真添付した看護情報提供を行い質向上に努めた。
- (3) ふれあいポストからの御提言を大切に、カンファレンスを実施、スタッフで共有し、改善に努めた。
- (4) 入院や予定外救急外来受診時の記録の徹底、救急外来記録のテンプレートの作成など、外来における患者の記録を充実させた。
- (5) 看護外来・助産師外来等、看護の専門性を発揮した。
- (6) BFH 取得にむけ、乳房ケアの充実を図り、相談やケアの充実を図った。

【財務の視点】

各種算定件数は下表参照

算定項目	件数	算定項目	件数
ストーマ処置料	556	外来迅速検体検査管理加算	107,513
外来化学療法	2,527	リンパマッサージ施術件数（保険適用外）	144
がん性疼痛緩和指導管理料	300	癌患者指導管理料Ⅰ	179
在宅療養指導料	471	癌患者指導管理料Ⅱ	7
在宅自己導尿指導管理料	232	癌患者指導管理料Ⅲ	338

【内部プロセスの視点】

- (1) 病棟へ595時間の業務応援ができた。主任が中心となり毎日業務調整を行い、外来間や病棟への業務応援に取り組んでいる。
- (2) インシデント0件（昨年度53件）
- (3) レベル3a以上0件
セーフティ委員会を中心に、カンファランスの実施、インシデントの共有を図り再発の防止に努めた。
- (4) 内視鏡室でのタイムアウトの取り組みを全事例に実施、静脈麻酔使用した治療時に医師とともに連携して導入件数を増やし安全対策を実施・定着している。

【学習と成長の視点】

- (1) キャリア開発研修はステップ2を1名、ステップ3を2名、が取り組み終了した。トリアーナース2名、クリニカルパス認定取得1名と資格取得した。また研修会参加後伝講会・学習会を40回実施した。
- (2) 看護研究活動として、30年度学会発表件数は2題であった。

《外来フィッシュ活動》 「外来のいいところ・がんばってること」

下記ポスター掲示し、スタッフひとり一人が付箋に外来のいいこと・スタッフのいいことを貼った。



救急外来

看護師長補佐 佐藤 加代子

1 概要

表1 「救急外来スタッフ体制」

	医師	看護師	薬剤科	放射線科	検査科	事務	ニチイ
平日日勤	各科オンコール	1名					2名
休日日直	医師2名 初期研修医1名	日直3名 遅出対応	1名	1名	1名	1名	日直2名
夜間当直	半当直(4h)1名 当直2名	当直1名 夜勤2名				1名	当直 1.5名

2 平成30年度救急受診患者数(平成30年4月～平成31年3月)

救急外来患者総数	12,369名 (平日:1,833名、休日:3,014名、夜間:7,524名)
入院患者数	3,270名 (うち、救急車で来院し入院した患者数:1,541名)
救急外来からの入院率	26.4% (うち、救急車来院からの入院率57.1%)
救急車受け入れ台数	2,700名
ドクターヘリ受入数	11名 (外傷9件、脳卒中1件)
来院時心肺停止患者	85名
トリアージ加算件数	4,492件

3 現状と活動状況

救急外来における「救急外来患者総数」、「救急車受け入れ台数」や「救急外来からの入院患者数」は昨年より大きく変化はない。しかし、高齢者や慢性疾患を伴う症状増悪患者、外傷患者など緊急度・重症度の高い患者搬送数は増加傾向にある。緊急を要する患者の病態に応じた処置やケアだけでなく、社会支援や福祉支援を必要とする生活状況も含めた看護ケアの提供が求められている。そこで、来院時からソーシャル・ワーカーや退院調整など他職種との連携をはかりつつ、救急外来から看護記録の充実に取り組み、患者や家族の意向を早期から共有ができるよう努めている。さらに、今年度は救急外来でのスキンテア予防として、皮膚状態の観察やリスクを理解するための勉強会、記録の充実に取り組み褥瘡発生リスクの減少をはかることができた。

救急外来での院内トリアージの実施率は、緊急車両以外で受診した患者の83.2%であり、診察まで安全に待つことが出来るように継続している。さらに、実際のトリアージ症例をもとに、緊急度判断が難しい場合の対応など勉強会を通してスタッフのスキルアップにも努めている。また、急変時対応やアナフィラキシーショック対応のシミュレーション研修のほか、緊急時に行なわれる検査や治療等の勉強会も開催し救急看護の質向上のため研鑽に努めている。

手術室・中央材料室

看護師長補佐 中川 恵美

1 概要

1) 手術診療科

外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、歯科口腔外科、皮膚科、眼科、耳鼻科、麻酔科、救急科

手術室数：7室

看護師数：20名(看護補助者1名含)

2) 中央材料室：スタッフ4名(委託業者)

2 手術件数：2,360件(H29 2,139件)

麻酔科依頼手術：1,445件(H29 1,298件)

3 平成30年度活動目標の取り組み

手術室看護目標 「患者一人一人を大切にし、安全で質の高い手術医療の提供」

【顧客の視点】

- 1) 麻酔科管理症例は全症例に術前訪問を実施し、手術室の紹介や麻酔導入、体位、褥瘡予防対策等ケアの説明を行った。また、同症例に術後訪問を実施し、ケアの評価を確認し周術期看護に活かした。満足度では「満足している」割合100%であった。
- 2) 手術担当看護師は入室前に麻酔科医師や各診療科医師とともに、手術体位、術式、アレルギーの有無等の情報の共有を行い、安全な周術期看護を提供するため取り組んだ。
- 3) 術中のスキンケア、除圧用具の適切な選択と積極的な活用、また、定期的な術中の除圧を行い皮膚損傷予防対策に努めたが、皮膚損傷5件、神経損傷2件発生した。再発防止対策により来年度0件を目指す。

【財務の視点】

- 1) 適正な診療材料管理を目的にSPDと連携し定数変更や不動在庫の効果的な活用に努めた。各科手術の医療材料キット内容を見直し、費用を削減する事が出来た。

【内部プロセスの視点】

- 1) 前年度導入した手術部位のマーキングは定着し、また、入室前の患者確認の徹底により、患者誤認件数は0件であった。
- 2) 職業感染予防対策としてダブルグローブ、アイシールドの装着を推進し看護職員は、100%実施であるが、医師の装着率が低いため、次年度も継続していく。
- 3) 他部署への業務応援時間は個人の希望時間も考慮し設定した。業務における時間管理にもつながり、前年度に比較して大幅に増加した。また、病院経営に参画しているという共通認識を持つことが出来た。

【学習と成長の視点】

- 1) 他県立病院手術室への見学と受け入れを行ない、県立病院間の連携推進を図った。見学2件 受け入れ1件
- 2) 安全、感染の分野を必須研修として定期的な部署研修として企画し、実施した。
- 3) 手術看護認定看護師による手術室スタッフや、病棟スタッフへの学習会と実技指導を実施した。術後ラウンド20回、勉強会4回（2病棟、3東病棟、3西病棟）

2 病棟

看護師長補佐 菱沼 美和

1 概要

診療科：外科、歯科口腔外科、救急科

病床数：51床

スタッフ数：看護師32名、看護補助者4名

夜勤体制：4:3

2 入院患者総数：14,750人 1日平均入院患者数：40.4人

病床利用率：79.2% 平均在院日数：10.8日

3 病棟看護目標

「周手術期や救急患者に対して、専門性を発揮した医療・看護を提供します。

患者さんやご家族の思いを大切にし、多職種で早期退院支援を実践します」

【顧客の視点】

- (1) 退院支援カンファレンス473件、退院前カンファレンス28件、退院後カンファレンス5件。退院後訪問9回実施(前年度比+6件)、退院前訪問1件。今年度初めて実施した退院前訪問では、患者の居住環境を実際に見ることで在宅に向けた情報を得ることができ、その後の介入がより具体的・個別的になった。また、退院後訪問では理学療法士の助言を受けて臨んだ事例や介入した内容が有効に活用されていることを確認することができると、患者・家族の安心と、スタッフの達成感にも繋がった。
- (2) 当病棟所属のがん認定看護師に、ターミナル期の患者の症状緩和についてカンファレンスを開催して相談し、日々の患者ケアに生かすことができた。
- (3) 褥瘡カンファレンスはハイリスク患者246件、褥瘡を有する患者35件、スキンテア患者33件実施。皮膚創傷ケア認定看護師と連携して患者の状態に応じたスキンケアやオムツの選択使用、ポジショニングについてベッドサイドで検討し、看護計画に反映させてケアの統一を図った。今年度はスキンテアにも着目し、皮膚脆弱な高齢患者に対して日常のスキンケアや貼付剤の選択と貼り方・剥離方法、NIPPV装着患者やAライン固定においてSIエイドの活用を推進した。
- (4) 看護の専門性発揮のため、部署診療科に関わる医療・看護・記録のe-ラーニング64件の活用を呼び掛け実施率100%。医師による疾患の勉強会や薬剤科・入退院支援部門のト

ピックス研修も企画して実施した。

【財務の視点】

- (1) 重症度、医療・看護必要度は、全患者の看護記録と評価の整合性監査を毎日実施。不一致項目はフィードバックして精度を維持した。
- (2) 救急医療加算・褥瘡ハイリスク加算は100%算定。栄養サポート加算は算定要件を周知したことで昨年度0件から今年度23件を算定。入院基本料も適正に管理した
- (3) クリニカルパスの運用推進では、腹腔鏡下結腸切除パスの栄養指導回数を医師・栄養科と共に検討して1回から2回に変更。患者指導の充実と加算増に繋がった。

【内部プロセスの視点】

- (1) 安全対策では、看護提供システム PNS のペアで内服薬・注射の指示や離床センサーのダブルチェックを推進。
 - ・インシデントレベル「0」(実施前発見)のきらめきレポート：16%
 - ・レベル「3a」以上の誤薬発生率：0.0%
- (2) 人材育成では、PNS のパートナーシップマインド醸成に向けた DVD やロールプレイによる研修を実施。経験年数の異なるスタッフ同士がお互いの違いを理解し、尊重し合える職場風土作りを推進。新人看護職員離職率0%。コーディネーターの役割見直しとその育成を図り、ペアの業務遂行と時間管理を支援した。
- (3) 看護補助者と共に床頭台のゾーニングや整理整頓、物品の適正管理に取り組んだ。

【学習と成長の視点】

- (1) 資格取得2名(隣地実習指導者・ストーマサイトマーキング)、学会発表2題を支援。
- (2) 院内研修は新人(2名)、ステップ1(2名)・ステップ2(3名)・ステップ4(2名)を支援し、修了した。

3 東病棟

看護師長補佐 阿部美智代

1 概要

診療科：脳神経外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻いんこう科

病床数：60床

スタッフ数：看護師31名、看護補助者4名

夜勤体制：4：3

2 入院患者数等

入院患者総数：1,412人 1日平均入院患者数：46.0人、

病床利用率：82.2% 平均在院日数：12.1日

3 活動目標への取り組み

重点項目

- ① 看護ケアの充実を図る
- ② 多職種と連携し患者、家族に寄り添った継続看護を実践する
- ③ 組織の一員として働きやすい職場づくりに参画する

【顧客の視点】

- (1) 患者アンケートの提言を元に、カンファレンスや基本的な接し方の研修会を実施し、各自が自己を振り返る等改善を図った。退院時アンケートでは感謝が増加した。
- (2) 医師、認定看護師を含む関連部署と共に在宅関係者と退院前カンファレンスを実施し連携を図った。

【財務の視点】

- (1) 認知症ケアサポートチームと連携し認知症高齢者が安心して入院生活が送れる様援助を行った。
- (2) 退院調整カンファレンスは受持ち看護師が中心となり 2 回/週の実施が定着した。

【内部プロセスの視点】

- (1) 月 1 回 KYT 研修を行い、危険予知能力の向上を図った。
- (2) 病棟全体で PNS に取り組み、実施した。安心・安全に看護ケアを提供するためにコーディネータを中心に相互支援体制を強化した。複数の診療科を経験することで人材育成できた。
- (3) 9 時前後の手術、各診療科の回診、処置が集中しているため、早出を 2 名にするなど、業務調整を適宜行い、働きやすい職場環境作りを実施した。

【学習と成長の視点】

- (1) ステップ研修受講終了者 7 名 (ステップ 1 1 名 ステップ 2 3 名、ステップ 3 3 名)。
- (2) 院外研修会に 1 人 1 回参加を目標に自己研鑽に努めている。

3 西病棟

主任看護師兼主任助産師 今野 貴子

1. 概要

診療科：産婦人科、小児科、新生児科、女性慢性期、形成外科

病床数：60 床

スタッフ数：看護職員 32 名、看護補助者 3 名

夜勤体制：4:3

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 2. 入院患者総数：2,527人（延数 16,905人） | 一日平均患者数：47.0人 |
| 平均在院日数：6.8日 | 病床利用率：88.4% |
| 年間分娩件数：763件 | 助産外来：875件 |
| 母親学級開催：56回、参加943名 | 帝王切開率：25% |
| 2週間健診（産褥外来含む）：811件 | |

3. 病棟目標

- 1) 地域周産期母子医療センターとしての救急受け入れ体制の整備
- 2) 地域との連携を図り、母子とその家族への専門的な診療と看護の提供
- 3) 小児救急の受け入れ体制の整備
- 4) 成長発達を踏まえた、小児とその家族への専門的な診療と看護の提供

【患者さんの視点】

(1) 地域と連携した患者満足度の向上

①PNS 導入後コーディネーターを固定し、業務が円滑に実践できるように業務調整を行った。また、退院時アンケート内容から問題点をあげ定期的に倫理カンファレンスを開催した。カンファレンス内容を共有し、関わりを重視したケアを実践した。

②地域母子連絡会議・一関地区消防連絡会議を実施し、地域との連携に努めた。

(2) 専門性の高い看護の提供

①周産期ケアの充実として産後2週間健診を全例に実施した。また、BFH 認定に向けた取り組みとして、外部講師を招いて院内研修会を実施し職員の周知に努めた。さらに母乳育児シンポジウムへの発表・母乳育児ワークショップへ参加し、他の BFH 施設と情報共有や知識の確認を行い自己研鑽に努めた。今年度から育児サークル「のびのび広場」を午前中に変更し、対象も当院外で出産された母子に拡大し開催している。1月に BFH 申請を行い、第一次審査通過となった。

②手術室スタッフと協力し帝王切開時の早期母子接触を継続。母乳育児推進に努めた。

③小児ケアの充実として、乳幼児・学童期向けの転倒転落を注意喚起する DVD を院内テレビ放送で流し、ベッドからの転落への注意を促した。また、乳児健診（6～7ヶ月、1歳）時の栄養相談を実施し継続看護に努めている。

④NCPR 取得者（新規、更新者含めて）84%

(3) クリニカルパスの推進 新規作成件数:0件、修正:25件、適応率:92.25%

【財務の視点】

(1) 小児環境加算定数：149件、産科ハイリスク加算算定：1,940件、褥瘡発生率：0.01%

(2) SPD バーコードの取り忘れ、薬品減耗：2件

【内部プロセスの視点】

(1) 医療安全対策として声だし・指さしを推進し、5R の周知徹底に努めた。インシデントを共有し対策後の評価を実施し、再発防止に努めた。

転倒転落率 0.54%（レベル 3a 以上の転倒転落 0 件）

(2) 働きがいのある職場作りとしてナラティブシェアリングを実施した。

【学習と成長の視点】

- (1) 看護研究： 日本新生児看護学会学術集会 発表1題
母乳育児シンポジウム 発表1題
日本母性衛生学会 学術集会 発表1題
日本病院学会 発表1題

4 東病棟

看護師長 吉川 真喜

1 概要

診療科：神経内科、循環器科、呼吸器科、救急科、皮膚科、放射線科

病床数：60床

スタッフ数：看護師31人、看護補助者5人

夜勤体制：4：4（土日3：3）

2 入院患者総数：1,744人 平均在院日数：10.5日

3 活動目標の取り組み

病棟基本方針

- 1、循環器疾患・神経疾患・呼吸器疾患・熱傷・重症薬疹等における救急対応と専門医療の提供
- 2、地域医療の医療機関と連携した、診療、看護

【顧客の視点】

(1) 患者満足度の向上

- ①患者・家族の意向に沿った退院支援の実施
- ②看護提供体制（PNS）の推進

(2) 看護の専門性発揮

- ①褥瘡対策の充実
- ②新規褥瘡発生率：0.03%（目標値0.07%以下）
- ③医療機器関連圧迫創予防への取り組み：NPPV装着部の褥瘡発生2件
- ④日常生活ケアの充実

【財務の視点】

- ①退院支援加算の算定件数：955件（前年度684件）
- ②認知症ケア加算の算定件数：32件（前年度32件）
- ③褥瘡ハイリスク加算：101件（前年度103件）

【内部プロセスの視点】

(1) 安全・安心な療養環境の整備

- ①医療安全対策の強化：レベル 3a 以上の転倒転落発生件数 2 件（前年度 0 件）
レベル 1 以上の患者誤認発生件数 1 件（前年度 3 件）

(2) 職務満足度の向上

- ①業務改善への取り組みと超過勤務の短縮：15.8 時間（昨年度：17.5 時間）

【学習と成長の視点】

人材育成の推進

院内研修：ステップ 2・・・3 名、ステップ 3・・・1 名、修了

各クリニカルラダーの「人間関係能力」B 評価以上の割合：85%

看護研究：院外発表演題 1 題

4 西病棟

看護師長補佐 長根 由希子

1. 概要

診療科：消化器科、眼科、呼吸器（結核のみ）

病床数：一般 50 床、結核 10 床

スタッフ数：看護師 27 名、看護補助者 3 名

夜勤体制：3：3

2. 入院患者総数：1,680 名

一日平均在院患者数：37.0 名

病床利用率：一般病床 81.8%、結核 0.4%

平均在院日数：8.2 日

3. 病棟目標

- 1) 医療安全対策の遵守
- 2) 多職種と連携したチーム医療の実践
- 3) 地域と連携し希望を取り入れた退院支援
- 4) 入眠前の足浴実施

4. 活動目標の取り組み

【顧客の視点】

- (1) 医師、多職種（薬剤科、栄養科、理学療法士、MSW、など）と連携したカンファレンスを 22 件行い、患者に寄り添った医療を展開した。
- (2) 患者・家族の意向に沿った退院支援として、退院支援カンファレンスを 1,018 件、退院前共同カンファレンスを 47 件実施。
また、不安無く退院出来る様に退院に向けた指導を 97.8%の患者に実施。
- (3) 足浴ケアを通して症状緩和、せん妄予防、リラクゼーションケアを実施。

【財務の視点】

- (1) 認知症患者のケア加算 1 : 251 件、ケア加算 2 : 249 件
- (2) 退院支援加算 : 840 件、介護支援連携指導料加算 : 93 件

【内部プロセスの視点】

- (1) 安全意識を高めるためインシデント 0 レベル報告事例 14 件報告。
レベル 3a 以上の誤薬 : 0%、レベル 3a 以上の転倒・転落 : 0.2%。
インシデントについてカンファレンスで改善策を話し合い、マニュアルの読み合わせ・6R 確認、指差し・呼称など基本的なルールの遵守に努めている。
- (2) ワークライフバランスの推進として、定時退庁日の設定、育児時の部分休、特別休暇（子の看護、親の介護、病休、命日の忌引き）など取得できた。

【学習と成長の視点】

- (1) ステップ 1 研修 : 2 名終了 ステップ 2 研修 : 4 名終了
ステップ 3 研修 : 1 名終了
- (2) 院外発表
第 12 回医療の質・安全学会学術集会 発表 : 1 題
第 11 回岩手看護学会学術集会 発表 : 1 題

5 病棟（緩和ケア）

看護師長 小川 美代子

1 概要

診療科 : 緩和医療科

病床数 : 24 床

スタッフ数 : 看護職員 18 名

夜勤体制 : 2 : 2

2 入院患者総数 : 207 名 1 日平均入院患者数 : 13.9 名

病床利用率 : 57.7% 平均在院日数 : 25.4 日

3 平成 30 年度活動目標の取り組み

病棟看護目標

患者さんの身体や心のつらさを和らげ、患者さん・ご家族の意思を大切にして『その人らしく』穏やかな毎日を過ごすことができるようめざします。

【顧客の視点】

- (1) 多職種カンファレンスを 2 回/週開催し、トータルペインの視点で問題を共有しながらケアの検討を行い、緩和ケアの質向上に努めた。また、多職種で自施設評価を行い、緩和ケア病棟における課題を明確化し改善に向け共通認識を図った。

- (2) 当院 4 回目の偲ぶ会を 10 月に開催し、30 名のご遺族の参加があった。グリーフケアとして定着しており、次年度も開催予定である。
- (3) ボランティア・栄養科と協働し 18 回ティータイムを行い、それに合わせ夏祭りやコンサートなどの行事を開催した。グリーフレター発送 110 件、入院患者の誕生日祝い 13 件、ペットとの面会支援 3 件を行った。
- (4) 緩和ケア病棟の啓蒙活動として、7 月に緩和ケア病棟市民見学会を行い 19 名の参加があり、アンケート結果：満足 89%、やや満足 11%と好評であった。
- (5) リレーフォーライフや IZAK へ参加し、緩和ケアにおける地域との連携・協働に努めた。

【財務の視点】

- (1) 入退院支援部門との連携を図り、自宅退院 43 件（前年度比 7 件増）、平均在院日数は前年度より 4.9 日短縮し成果を上げ、緩和ケア病棟入院基本料 1 の要件を満たし算定できた。

【内部プロセスの視点】

医療安全対策として転倒転落カンファレンスや、インシデント分析と改善策の共有、指さし呼称の唱和、KYT、配薬カートの点検等を行った。レベル 3a 以上の転倒転落は 1 件、レベル 3a 以上の誤薬は 0 件であった。

【学習と成長の視点】

岩手医科大学付属病院高度看護研修センター 認定看護師教育課程 緩和ケア分野の臨地実習で研修生 1 名を受け入れた。褥瘡学会で演題 1 題を発表した。その他、岩手緩和ケアテレカンファレンスで事例をまとめ発表した。

内視鏡室

主任看護師 石川 千秋

1. 概要

医師：消化器内科医 6 名 東北大学より 2 名（2 日/週）

スタッフ：看護師 5 名（うち内視鏡技師有資格者 2 名）

看護補助者 1 名 医療クラーク 1 名

検査室数：上部内視鏡室 2 室 下部内視鏡室(透視可) 1 室

上部透視検査室（ERCP、消化管ステント、MDL、DDL 対応）1 室

内視鏡室スタッフ体制

	医師	スタッフ
平日勤務	(消化器) 内視鏡担当医 2～3 名	看護師 4 名 看護補助者 1 名 医療クラーク 1 名
休日・夜間 呼び出し体制	消化器当番医 1～2 名	緊急内視鏡待機対応 看護師 1 名

2. 平成 30 年度内視鏡検査数 全検査数：4,923 件(消化管止血術：緊急呼び出し対応含む)

検査名	GIF	CF	消化管止血術	胃/食道 ESD	大腸 ESD	胃、大腸ポリープ切除術	ERCP 含む 採石・ドレナージ、ステント治療
件数	2,557 件	1,450 件	116 件	46 件	25 件	314 件	138 件

3. 現状と活動状況

内視鏡検査・治療件数は年間約 5,000 件であり、検診後の精査から内視鏡的治療まで、内視鏡専門医をはじめとした消化器内科医師 6 名、内視鏡技師 2 名、看護師 3 名、看護補助者・医療クラーク各 1 名で協力し合い検査や治療に対応しています。内視鏡的治療においては、消化管出血に対する止血術はもちろんのこと、早期癌の内視鏡的粘膜剥離術や内視鏡的逆行性膵胆管造影など幅広く専門的な治療を行っています。

内視鏡検査を受ける患者さんの多くは不安を抱え来院されるため、安心して検査が受けられるよう患者さんの声に耳を傾け個々に寄り添う看護を目指しております。待合室には検査用パンフレットやポスターなどを掲示し情報提供を充実させています。入院治療の際は術前訪問を行ない治療の流れについてオリエンテーションを行ない、術後訪問では治療に対する意見等を伺いカンファレンスを実施、今後の看護に活かせるよう努めています。

また、安全な医療が提供出来るよう医師と看護師の情報共有を目的とし、サインイン・タイムアウト・サインアウトを導入したことで、医療安全への協働過程はもとよりチーム力向上にも繋がっていると感じています。

当院は中核病院として緊急内視鏡にも 24 時間対応出来る体制を取っており、地域医療の拠点として患者さんや御家族が安心して検査・治療が受けられるようスタッフ一丸となって取り組んでいます。

外来化学療法室

がん化学療法看護認定看護師 道上 美貴

1 概要

【スタッフ紹介】

看護師 4 名 (がん化学療法看護認定看護師 1 名)

【主な対象疾患】

胃癌、食道癌、直腸癌、結腸癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌、乳癌、膀胱癌、尿管癌、腎癌、前立腺癌、卵巣癌、子宮体癌、子宮頸癌、クローン病、潰瘍性大腸炎、肺癌、原発不明癌

2 平成 30 年度の実績

年間利用者 延人数 2,530 名 (平成 31 年 3 月末)

	外科	消化器科	呼吸器科	婦人科	泌尿器科	小児科	整形外科
利用者数(名)	1,525	447	295	114	96	19	34

3 活動内容

がん化学療法は新規化学療法薬の導入、支持療法の進歩などにより、治療内容が著しく変化し、多くの治療が外来で実施できるようになってきている。さらに第4のがん治療として注目されている免疫療法が加わったことで、治療内容がさらに複雑化し、副作用も変化してきている。また根治を目指す治療だけでなく、進行・終末期患者の治療として行われることも多く、全身状態が低下している患者も外来で治療を実施している。安全に確実にがん化学療法を実施するだけでなく、患者が自分らしく生活できるように支援することも求められてきている。

そのなかで治療している患者の副作用などの管理は、自分自身もしくは家族によるセルフケアが重要となり、患者教育が必要となる。そこで治療導入前には患者や家族と面談し、安心して治療が受けられるようにオリエンテーションを実施している。治療実施前には、身体面・精神面・社会面から患者を捉え、出現する可能性のある有害事象に対し、現在のセルフケア能力で対処できるかなど総合的にアセスメントを行っている。治療中には、急性の有害事象の出現に注意し観察を行い、快適で安心感がもてる治療環境の提供に努めている。治療後には、日常生活を送りながら治療が継続できるようにパンフレットを用いて説明や相談に応じ一緒に考え取り組んでいる。希望患者へは自宅での生活状況の確認や副作用対策の確認のため、電話サポートを行っている。

－相談内容の一例－

- ・爪の変化や変色、皮膚症状に対するカモフラージュ法（アピアランスケア）について
- ・味覚障害による食欲低下時の栄養指導 など

複雑化するがん化学療法に対応するために、医師と連携をとることはもちろん、他部署の看護師・薬剤師・MSWなどの多職種とのチーム医療構築がきわめて重要である。私たち外来化学療法室スタッフがチームの架け橋となって相互をつなぐ役割を担い、お互いの役割や活動を理解し効果的にケアが実践でき、さらに患者のセルフケア能力の向上へつながるような支援ができるように今後も努めていきたい。

医療安全管理室（セーフティマネジメント部会）

医療安全管理専門員 三浦 実千代

1. 部門の紹介・概要

医療安全管理室は、患者さんに安全で信頼される医療を提供する為に、安全管理体制の整備を行うための役割を担っています。

医療安全管理室の構成は、医療安全管理室長1名と医療安全管理専門員1名、各部門で安全管理を担当しているセーフティマネジメント部員です。

医療安全管理室の業務は以下のとおりです。

- 1 医療安全に関する研修の企画立案に関すること
- 2 医療安全に関する各種マニュアルの作成、見直しの総括に関すること
- 3 医療事故に関する調査、分析、評価及び指導の総括に関すること
- 4 医療安全に関わる院内、院外関係機関との連絡調整に関すること
- 5 その他医療安全対策の推進に関すること

医療安全推進活動として医療安全管理のための職員研修会では、全職員の医療安全管理に対する意識を向上させるために研修会を開催しています。平成30年度は、医療安全必須研修会を2回開催しました。

「医療における個人情報の取扱い」では、医療機関における情報管理と倫理的配慮について常に意識をもって行動するための基本原則について、「MRIの安全管理」ではMRIの基礎知識を習得し事故防止につなげられるよう全職員への医療安全のための啓蒙活動を行いました。

また、病院で働く全ての職員が安全に関する知識を高め、病院のルールを理解し遵守するために、医療安全対策マニュアルを適宜整備し、定期的に医療安全パトロールにて院内巡視を行い、マニュアルの遵守状況等の確認をしています。

平成30年度は、医療安全対策地域連携加算が新設になり医療安全対策加算1の届け出医療機関（栗原中央病院）、及び医療安全対策加算2の届け出医療機関（大東病院）との相互ラウンドを行いました。

第三者的視点から検証し、それぞれの医療安全の強化、改善につなげ医療事故防止を図っています。

当院のインシデント・アクシデントレポートの要因の多くは、確認不足であることから、「指さし呼称」での確認行動の周知徹底を推奨しています。特に薬剤関連のインシデント・アクシデントレポートが全体の3割を占めることから、「指さし呼称」での「患者名」「薬剤名」「用法」「用量」「時間」の『5R』に加え「目的」も含めた『6R』で確認することを周知して行っています。

今後も医療安全活動に全職員が協力し、組織としての安全醸成が推進できるように努めていきます。



感染管理室 ICT (感染制御チーム) /AST (抗菌薬適正使用支援チーム)

感染管理室長 本庄 省五

1 概要

感染管理室の構成メンバーは、医師 (ICD)・看護師 (CNIC)・薬剤師 (PIC)・検査技師 (ICMT) である。感染管理室長は、病院長から感染管理室・ICT・AST が所掌する業務の総括指揮に関することの権限を委譲されている院内感染管理者であり、感染管理認定看護師1名が専従をしている。

ICT は、院内の感染対策を推進するとともに、感染症発生時に適切な対応を行うためのチームであり、看護科院内感染予防対策リンクナースと協力し、院内感染対策の徹底に向けて活動を行っている。

AST は、入院患者の感染症治療が適正に行われるよう、医師を支援するチームである。国の AMR アクションプランを踏まえて、当院でも 2018 年度から抗菌薬適正使用支援チーム (AST) が発足し、定期的な AST 症例検討ミーティングを行い、抗菌薬の適正使用の推進を行っている。

ICT の主な活動内容

- (1) 院内感染予防策の実施と発生した感染症への対応
- (2) 院内感染予防対策マニュアル等の整備・改訂
- (3) 薬剤耐性菌や医療関連感染に関するサーベイランスの実施
- (4) 院内ラウンドの実施 (毎週)
- (5) 全職員を対象とした感染研修会の開催 (年 2 回以上) や教育活動
- (6) 感染に関する各種相談 (コンサルテーション) への対応
- (7) 職業感染防止
- (8) 連携施設との合同カンファレンスや相互評価等の実施
- (9) 地域・職場での感染防止のための教育活動

AST の主な活動内容

- (1) 抗 MRSA 薬やカルバペネム系薬等の特定抗菌薬の届け出制の実施
- (2) 特定抗菌薬使用例や血液培養陽性患者等の早期からのモニタリングと TDM (薬物血中濃度モニタリング) 等を含めた抗菌薬適正使用の診療支援
- (3) 適切な培養検査実施の支援や施設内のアンチバイオグラム作成など、抗菌薬適正使用支援に向けた体制の整備
- (4) 血液培養複数セット提出率などのプロセス指標及び薬剤耐性菌発生率や抗菌薬使用量等のアウトカム指標の評価
- (5) 全職員対象とし、抗菌薬適正使用を目的とした研修会の開催 (年 2 回以上)
- (6) 抗菌薬の適正使用に関するマニュアルの作成・改訂
- (7) 院内採用抗微生物薬の定期的な見直し

2 活動実績

開催日	実績	備考
5/15	第 1 回一関地区感染連携協議会カンファレンス	インフルエンザ対策
8/21	第 2 回一関地区感染連携協議会カンファレンス	ICT ラウンドと感染研修会について
11/20	第 3 回一関地区感染連携協議会カンファレンス	抗菌薬の適正使用と耐性菌対策
2/19	第 4 回一関地区感染連携協議会カンファレンス	各施設の感染取り組み報告
9/6	第 1 回感染防止対策地域連携加算に係る相互ラウンド	栗原中央病院来院し、当院を評価
11/29	第 2 回感染防止対策地域連携加算に係る相互ラウンド	栗原中央病院の評価

1/22	第3回感染防止対策地域連携加算に係る相互ラウンド	県立千厩病院の評価
10/11	第1回AST研修会	抗菌薬ベーシックセミナー1
2/12	第2回AST研修会	抗菌薬ベーシックセミナー2
5/10	看護の日イベント	手指衛生手技確認と感染予防啓蒙
10/7	いちのせき健康スポーツフェア	手指衛生手技確認と感染予防啓蒙
10/23	大東病院 感染研修会及びラウンド	標準予防策
11/10	県防災訓練参加 (ICAT)	避難所の感染対策
6/19	どこでも医療講座『手洗い教室』	地域活動支援センター一関
7/4	どこでも医療講座『手洗い教室』	東山小学校 (1年)
7/20	どこでも医療講座『手洗い教室』	大原小学校
9/26	どこでも医療講座『手洗い教室』	東山小学校 (3年)
10/30	どこでも医療講座『手洗い教室』	藤沢小学校
11/26	どこでも医療講座『手洗い教室と感染対策』	一関地区保育協会
11/29	どこでも医療講座『手洗い教室』	滝沢小学校
1/10	どこでも医療講座『手洗い教室』	いちのせき保健センター
12/6	保健所感染対策研修会	高齢者、障がい者施設等の感染対策
12/17	保健所感染対策研修会	保育施設等の感染対策

薬 剤 科

薬剤科長 佐山 英明

1. 概要

スタッフ

薬剤師 15名、臨時薬剤助手 4名、時間制薬剤助手 1名

認定薬剤師

がん薬物療法認定薬剤師 1名、感染制御認定薬剤師 1名

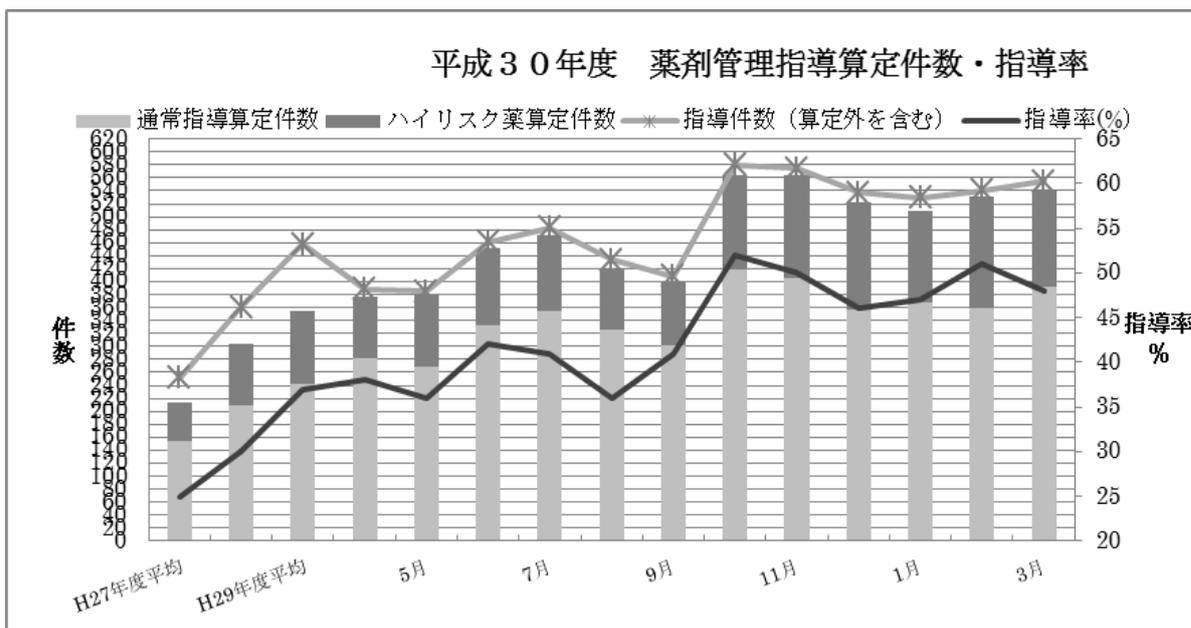
業務内容

外来入院調剤、注射薬払い出し、がん化学療法支援業務（抗癌剤調製、レジメン監査、患者説明）、薬剤師外来、入院予定患者支援、病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報提供、薬事委員会事務局、治験事務局、製造販売後調査事務局、院内医薬品の管理、薬品事務、薬学部5年生の実務実習指導、看護学院講師（薬理学、生化学）、チーム医療への参加（ICT、AST、NST、緩和チーム）等

2. 取り組み状況

- ① 薬剤管理指導業務では業務シフトの見直しや効率化を図った結果、年間の薬剤管理指導算定件数は5,733件で前年度比35%増、退院時指導件数は1,402件で28%増、麻薬管理指導件数は131件で21%増となり、入院患者への指導率が当初37%から50%近くまで増加しました。
(表1)
- ② 病棟薬剤業務では、持参薬鑑別等の業務場所を面談室から病棟内のカウンターに移動することにより、他職種とコミュニケーションの取りやすい環境作りを行い、周りから顔の見える薬剤師を目指しています。
- ③ 薬品の効率的使用について、後発薬品への切り替え促進を行った結果、後発薬品の使用数量割合が85%から92%に増加しました。また、不要不急薬品の整理、院内にある定数薬の見直し、期限切迫薬品の情報提供等により、薬品費の縮減や薬品減耗費の抑制に取り組んでいます。
- ④ 入院処方全てに患者向けおくり説明書の添付を開始して、薬剤管理指導業務の効率化と患者サービスの向上、医療安全に寄与しています。
- ⑤ 麻薬と向精神薬の薬袋に使用記録の表を追加して看護業務負担軽減とインシデント防止につながりました。
- ⑥ 南光病院採用薬について、救急患者に即対応可能するため磐井病院でも処方できるようマスターを変更しました。それに伴い使用開始連絡の必要が無く利便性も向上しました。
- ⑦ 調剤薬局から処方医師へ、必要な患者情報の連絡をFAXで行う服薬情報提供書(トレーシングレポート)の運用を開始しました。これにより、副作用の可能性やポリファーマシー、服薬アドヒアランス等について情報共有が可能となりました。
- ⑧ 薬剤師外来を開始し、抗がん剤や麻薬等の服薬指導と、服薬アドヒアランス、ポリファーマシーなどの対応を行っています。
- ⑨ 薬学生長期実務実習は1期(5月7日から7月22日)2人に実施し、将来、岩手県立病院で活躍できる人材育成を目標に指導しています。

表1



2. 平成30年度 薬剤業務実績

		合計	平均(月)	
調剤実績	処方箋枚数	入院枚数	39,629	3,302.4
		入院計	39,629	3,302.4
		外来枚数	10,362	863.5
		外来計	10,362	863.5
	合計	49,991	4,165.9	
	調剤数	入院調剤数	5,359	446.6
		外来調剤数	24,119	2,009.9
		合計	29,478	2,456.5
院外処方箋発行		枚数	55,303	4,608.6
		(発行率%)	84.2%	
IVH調整		実績件数	-	-
		患者数	-	-
通常薬無菌製剤処理料(40点)		算定件数	-	-
入院抗がん剤無菌調整		件数	382	31.8
外来化学療法加算件数		合計	2,523	210.3
外来化学療法加算A(15歳未満 820点)		件数	-	-
外来化学療法加算A(15歳以上 600点)		件数	2,379	198.3
外来化学療法加算B(15歳未満 670点)		件数	19	1.6
外来化学療法加算B(15歳以上 450点)		件数	125	10.4
閉塞式機器抗がん剤処理加算(180点)		件数	2,736	228.0
抗悪性腫瘍処方管理加算(70点)		件数	1,950	162.5
手帳加算(3点)		件数	-	-
薬剤管理指導	算定	325点	4,184	348.7
		380点	1,565	130.4
		麻薬加算件数	127	10.6
		退院時薬剤情報管理加算	1,492	124.3
病棟薬剤業務実施加算		件数	948	79.0
薬剤情報提供		件数	8,758	729.8
薬品鑑別		件数	4,843	403.6
薬品再調剤		件数	477	39.8

写真1 薬剤師外来



写真2 抗癌剤の調製



放射線技術科

診療放射線技師長 勝田 元

1. 部門の紹介・概要

放射線技術科は、画像診断科と放射線治療科を合わせた3つの科が一体となって X 線撮影・CT・MRI・核医学検査・放射線治療を担当する部門です。

【スタッフ】

診療放射線技師 16 名（男性 10 名・女性 6 名）

臨時診療放射線技師 1 名、補助員 2 名

【保有機器】

一般撮影装置（3 台）、乳房撮影装置、X 線透視装置（3 台）、CT 装置（2 台）、MRI 装置、血管撮影装置、SPECT 装置、高エネルギー放射線治療装置、回診用 X 線装置（3 台）、手術中透視装置（2 台）

【圏域病院への応援】

大東病院・千厩病院・花泉診療センター

2. 平成 30 年度の出来事・取り組み

【X 線透視装置の更新】

平成 30 年 12 月に X 線透視装置、島津 SONIALVISION G4 を更新装置として導入しました。

この装置の特長として、大視野 17 インチの FPD とデジタル画像処理、BF フィルター（軟 X 線除去フィルター）の自動切り替えや散乱線除去グリットの着脱などによって被ばくの低減と高画質を得られることなどがあげられます。その他には、患者さんを動かすことなく頭から足まで撮影が可能であり、寝台の昇降が 47cm まで下がるため患者さんの移動などが楽に行えます。操作者も検査に応じて任意の高さ設定（47cm～110cm）ができ、負担のない姿勢での操作が可能です。今回の装置導入により、血管撮影装置で行なわれていた嚥下造影検査が透視室でも可能となりました。透視画像をそのまま保存し画像データとして利用出来るため、新たな撮影をする事なく検査を終了することができます。さらに撮影可能な領域が広いいため位置合わせも簡単で、患者さんも血管撮影装置より楽に検査が受けられるようになりました。



【資格・研修】

医療は日進月歩であります、それに対応できる技師としての知識・資質の向上を常に心がけています。また様々な認定資格や専門技師の取得をしており、学会や研修会への参加にも努めています。

【医療安全への取り組み】

核医学検査における薬剤の取り扱いや確認・CT 検査におけるペースメーカーや ICD の取り扱い・MRI 室でのインシデントなど安全面や取り組みなどの報告を研修会でを行っています。

【地域への取り組み】

一関高等看護学院への講義や一関・平泉などの中高校生へのセミナーなども毎年行っており、地域貢献活動に努めています。

【接遇】

放射線技術科は気持ち良く検査を受けて頂ける様な接遇やサービス向上を行っています。当科は様々な撮影室や待合室があり、撮影内容によっても分かれています。口頭説明では分かりづらい患者さんもいらっしゃいますので、丁寧な説明や検査待合・撮影室までご案内をし、検査の待ち時間短縮や緊急検査の対応など、常に患者さんに気を配りながら検査するように心掛けています。

3. 業務実績

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの主な業務の件数は下表の通りです。

部門	業務項目	件数	使用機器
画像診断	一般撮影	22, 598 件	FUJIFILM DR システム CALNEO(3 室)
	回診撮影	5, 942 件	島津 Mobile Art(2 台)・日立シリウス
	乳房撮影	919 件	FUJIFILM AMULET Innovality
	透視検査	1, 222 件	X 線テレビ装置島津(2 台) ・ 日立 (1 台)
	CT 検査	13, 361 件	SIEMENS (Flash・SOMATOM-Sensatin)
	画像処理	946 件	Via・テラリコン・ワークステーションによる 3D 処理
	MRI 検査	3, 670 件	SIEMENS MAGNETOM Aera 1.5T
	核医学検査	451 件	東芝 E-CAM
	血管撮影検査	473 件	島津 BRANSIST Safier VC 1 7
	CD 書き出し	276 件	PACS→ CD 画像データ書き出し
CD 取込み	246 件	CD→ PACS 画像データ取込み	
放射線治療	新患者数	116 人	リニアック
	延べ患者数	2, 651 人	VARIAN CILINAC-21EX-OBI
	門数	159 門	

臨床検査技術科

臨床検査技師長 高橋 幹夫

臨床検査技術科は検体検査部門と生理検査部門の2つに分かれており、診断・治療・経過観察の指針となる患者さまの情報を、正確かつ迅速に外来、病棟へ提供することを業務としています。検体検査部門では尿一般、血液、輸血、生化学・免疫、細菌および病理組織検査を行っております。更に、緊急検査は24時間体制で対応しています。当科は岩手県両磐医療圏域の基幹病院として、花泉地域診療センターや大東病院の応援業務や千厩病院、大東病院の特定検査項目の受託検査を行っています。また隣接する南光病院の検査業務の全面委託を行っており圏域の中核病院としての役割を担っています。

検体検査では、臨床的意義が高い検体検査報告を目指しており、内部精度管理は毎日実施し日々のデータ保証を確認しています。外部精度管理では、日本臨床検査技師会、日本医師会、岩手県臨床検査技師会、および岩手県医師会主催の精度管理調査に参加し高い評価判定を得ています。その結果は科内精度管理委員会で検討し、業務にフィードバックしています。日頃の精度管理徹底に努め、高い信頼性に繋がっています。

生理検査では心電図関連検査、脈波関連検査、神経生理検査、無呼吸関連検査、肺機能検査、聴力関連検査、エコー関連検査を主に行っています。この他に、超音波骨密度検査 SPP(皮膚灌流圧)検査 CPAP・ASV 解析など多岐にわたって診療に貢献しています。

資質の向上をめざし各種認定試験や専門技師の資格取得も進めており、取得した資格を活用しチーム医療に積極的に参加しています。

今年度の新たな取り組みとしては、病棟検査技師の配置、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)への参加、認知症ケアチームへの参加、検査技師による検査説明が実施されました。毎年、新規検査項目を増やしており、今年度は結核菌PCR検査、水痘帯状疱疹ウイルス抗原定性検査、耳鼻科の語音聴力検査・顔面神経伝導検査、南光病院の下肢静脈エコーが追加されました。

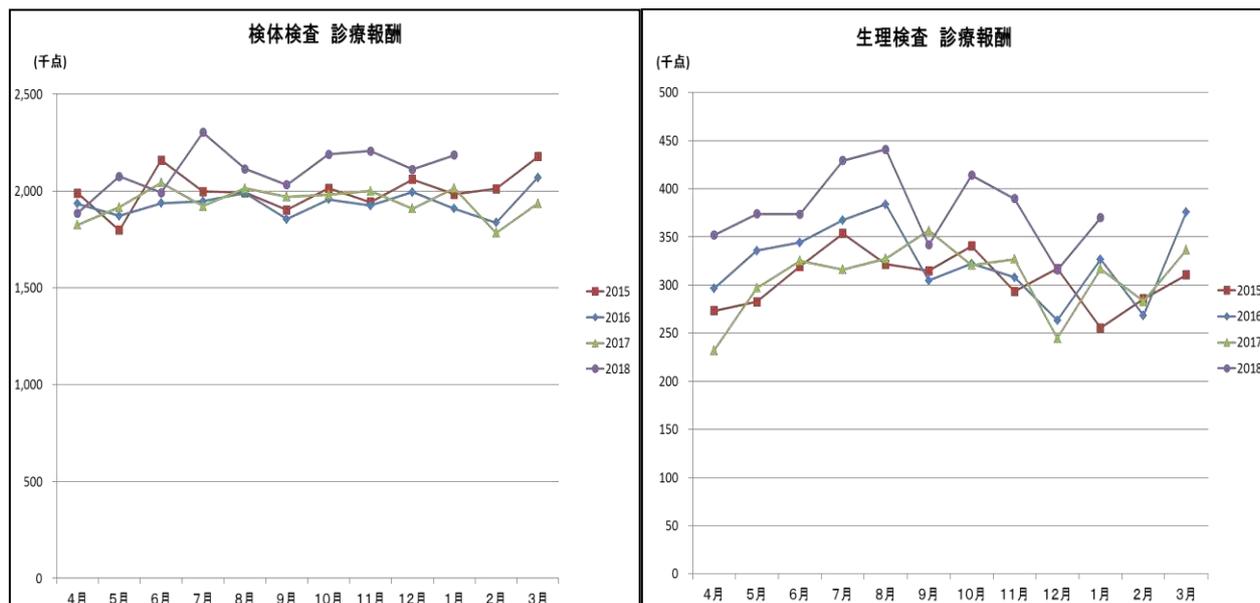
医療安全は病院の重要項目であり、最重要検査結果をパニック値報告として対応しています。そのパニック値報告症例の調査結果を管理会議や医療安全委員会へ話題提起しています。病理検査結果の担当医見逃し防止のため、組織診・細胞診結果の未開封チェックシステムを導入し、その効果を検証しています。病院全体のリスクマネージメントに繋がることを、重要項目として取り組んでいます。

今後、高齢化とともにますます医療の必要性は高まり、更なる件数増加や新規検査項目導入も予想されますが、スタッフ一丸となって地域の中核病院である気概を持ち日々の業務に取り組んでいきたいと思っております。



【検体検査 診療報酬】

【生理検査 診療報酬】



臨床検査技師の各種学会等の認定、専門資格は以下の通りです

I CMT 制度協議会	感染制御認定臨床微生物検査技師
日本超音波医学会	超音波検査士 (循環器)
	超音波検査士 (消化器)
	超音波検査士 (体表)
	超音波検査士 (血管)
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
いわて糖尿病療養指導士会	いわて糖尿病療養指導士
日本臨床細胞学会	細胞検査士
日本乳がん検診精度管理中央機構	乳房超音波講習会試験 B評価
	乳房超音波講習会試験 A評価
岩手労働基準協会	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者
日本心血管インターベンション治療学会	心血管インターベンション技師
日本不整脈心電学会	心電図検定 2級
	認定心電検査技師
日本臨床検査同学院	二級臨床検査士 循環生理学
	二級臨床検査士 神経生理学

リハビリテーション技術科

リハビリテーション技師長 稲見 雅浩

1 概要・紹介

職員数：理学療法士5名、作業療法士2名、言語聴覚士2名

施設基準：脳血管等リハビリテーション（Ⅱ）、運動器リハビリテーション（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション（Ⅱ）、がん患者リハビリテーション、摂食機能療法

2 本年度の「病院事業運営方針」等に基づく部門の取組目標

- (1) 両磐地区の急性期リハの拠点病院である。急性期リハの充実とその推進、早期介入、治療の継続を目標とした休日勤務体制、365日体制の実施。
- (2) 人材育成、働きがいのある職場の構築と業務改善を推進し、効率的収益確保を目指す。積極的に外部に資格取得に通ずるものへの研修会派遣。通常の単位実施率アップに加え、総合実施計画書、退院時指導の過不足ない算定を心がける。
- (3) 両磐地区での地域連携の推進を図る。地域連携パス（脳、頸部骨折）、退院時カンファへの参加。

3. 平成30年度実績

(1) 平成30年度処方数

	入院	外来	合計
理学療法士（PT）	1,092	29	1,121
作業療法士（OT）	546	29	575
言語聴覚士（ST）	395	1	396

(2) 平成30年度取得単位数

	入院	外来	合計
理学療法士（PT）	15,471	255	15,726
作業療法士（OT）	6,922	557	7,479
言語聴覚士（ST）	4,722	3	4,725

(3) 平成30年度収支（円）

	入院	外来	合計
理学療法士（PT）	38,534,440	445,355	38,979,795
作業療法士（OT）	16,961,200	872,835	17,834,035
言語聴覚士（ST）	13,897,920	6,000	13,903,920
合計	69,393,560	1,324,190	70,717,750

4 おわりに

両磐地区における急性期リハビリテーション病院として、急性期リハの充実とその推進を図り、365日体制の充実を目標にスタッフ一同邁進します。また、院内の各専門チーム、NST、ICT、RST、CP、褥瘡、医療安全等委員会等に積極的な活動を、チーム医療の推進の為、今後とも連携してまいりたいと思っておりました。

栄養管理科

栄養管理科長 馬場 美喜

1 概要

(1) 職員数 36名

管理栄養士 : 7名 (科長1名、主任管理栄養士〈NST専従〉1名、管理栄養士4名、
臨時管理栄養士1名)

調理師 : 29名 (主任調理師2名、調理師13名、臨時調理師7名、臨時調理手4名、
時間制調理師3名)

(2) 業務内容 : 入院患者への食事提供及び栄養管理全般
入院・外来栄養食事指導
NST(専従配置)

2 栄養管理・栄養指導状況

患者給食延食数 198,900食

特別食加算率 32.3%

特別メニュー件数 1,321件

*給食管理収益 136,336,620円

NSTサポート加算件数 287件

(歯科医師連携加算 再掲 186件)

入院栄養指導算定件数 908件

(初回:877件、継続:31件)

外来栄養指導算定件数 824件

(初回:251件、継続:573件)

3 業務状況

行事食 年 22回

いわて食財の日 月 1回

いわて減塩・適塩の日 月 1回

特別メニュー 朝食:毎日

昼食:月 2回

緩和医療への取り組み おやつサービス 月 2回

個人対応率	40.1%
母親教室	月 1回
乳児栄養相談	月 2回
N S T回診	週 1回
褥瘡回診	週 1回
栄養管理科運営委員会	年 2回
両磐圏域栄養管理科会議	年 2回

「安心・安全で美味しい食事を通して、病気の治療に貢献します」を目標とし、N S T活動を中心とした栄養管理を実践した。平成28年より月1回岩手県の取り組みである‘いわて減塩・適塩の日’実施し、食事を通して減塩の重要性について、啓発活動を展開している。

平成30年4月より、出産祝い膳を和食から洋食へのリニューアルを行った。

いわて食財の日



特別メニュー



緩和ティーサービス



いわて減塩・適塩の日



出産祝い膳



ハロウィン



臨床工学技術科

主任臨床工学技士 高山 秀和

1. 部門の紹介・概要

臨床工学技術科は平成 15 年度に院内に多種多様にある医療機器の効率的運用および安全管理を目標とした ME 機器中央管理業務を中心に開設されました。現在は臨床工学技士 5 名体制となり ME 機器中央管理に加え生命維持管理装置に関する専門的知識・技術を基盤とする様々な臨床技術提供を行っています。また 2014 年度より千厩病院の人員配置を磐井病院に集約し、磐井病院から 1 名が兼務業務として千厩病院で勤務しております。兼務業務は 1 ヶ月ごとローテーションしております。千厩病院に臨床工学技士が不在とならないよう、休暇取得時は可能な範囲で磐井病院から千厩病院へ業務応援を行っています。両磐領域の大東病院へは月 1 回、南光病院、花泉診療センターへは不定期になりますが業務応援を行い、医療機器保守点検や医療機器取り扱い勉強会を開催し、両磐領域の医療安全確保に努めております。

他部署との取り組みとしては看護科、医療安全室と協力し新採用者、中途採用者の方々が安全に輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できるよう入職後に取扱い勉強会を行っています。

2. 業務実績

[スタッフ]

高山秀和(卒後 22 年) / 高橋紀美香(卒後 22 年) / 小野誓子(卒後 11 年)
那須一郎(卒後 4 年) / 高野海渡(卒後 3 年)

[勤務形態]

磐井病院：4 名 勤務（月～土） ※夜間・日曜：1 名待機
千厩病院：1 名 勤務（月～金） ※祝日除く
大東病院：月 1 回業務応援
南光病院、花泉診療センター：不定期(年 1～2 回)

[認定資格]

- 呼吸治療専門臨床工学技士：高山秀和
- 体外循環技術認定士：高山秀和
- 3 学会合同呼吸療法認定士：高山秀和、高橋紀美香、小野誓子
- 透析技術認定士：高橋紀美香、小野誓子、那須一郎

[業務集計]

補助循環業務

業務の内容	症例数（臨時）
IABP	5(5)

血液浄化業務

業務の内容	延べ施行件数（臨時）
血液透析	1436(17)

血液透析(出張)	6(6)
胸・腹水ろ過濃縮再静注法	56(22)
血漿浄化療法	6(1)
白血球除去療法	17(2)
エンドトキシン吸着療法	0
持続血液濾過透析	8(4)
合計	1529(52)

ペースメーカー関連業務

業務の内容	症例数(臨時)
ペースメーカーチェック(外来)	476(5)
ペースメーカーチェック(外来以外)	51(7)
ペースメーカー、リード [®] 植え込み、交換	49(4)
植込みデバイス立ち会い	20(7)
ICD/CRTD チェック	77(5)
合計	673(28)

呼吸治療業務

業務の内容	症例数(臨時)
装着時の立会い	1(1)
呼吸回路の交換	14(14)
呼吸ケアチームラウンド	1(1)
その他	83(4)
合計	99(20)

心・血管カテーテル業務

業務の内容	症例数(臨時)
心臓カテーテル検査	149(31)
PCI	83(53)
PTA	0(0)
体外式ペースメーカー留置	6(6)
合計	238(90)

手術領域での業務

業務の内容	症例数(臨時)
血液回収	16(1)

ME 機器管理業務

内容	件数
作動中点検	2546
始業点検、終業点検	6209
定期点検(臨床工学技術科で施行)	663

定期点検(メーカーで施行)	21
合計	9439

★修理

内容	件数
臨床工学技術科で対応	195
メーカーに依頼	31
合計	226

★中央管理業務

機種	保有台数(平均貸出率)
送液装置	156(46.3%)
人工呼吸器(挿管用)	8(35.4%)
人工呼吸器(マスク用)	10(41.6%)
深部静脈血栓予防装置	32(80.5%)
低圧持続吸引装置	11(38.5%)
ネブライザ	16(34.5%)

待機と時間外対応

内容	件数
来院し対応した件数	57
電話で対応した件数	6

業務応援日数

病院	日数
花泉、千厩、大東	33日

患者支援センター

【入退院支援部門】

看護師長補佐(退院支援専従) 浅沼 由子

1. 部門紹介・概要

入退院準備が適切かつ円滑に実施されることを目的に、地域との連携を踏まえ、必要な指導内容や環境整備を組織的に進められるように、物的・人的調整を行う。

院内組織の地域医療福祉連携室に入退院支援部門が位置づけられ、退院支援看護師4名(専従1名・専任3名)、入院時支援看護師2名(専従1名・看護師1名)がん専任看護師1名、医療福祉相談兼務の医療ソーシャルワーカー3名にて構成されている。

2. 認定資格

医療福祉連携士 資格修得者3名配置(看護師)

3. 活動実績（実施件数・算定実績）

項目（面談等）	件数	項目（算定）	件数
共同カンファレンス件数	3,660 件	退院支援加算 1	3,220 件
退院前カンファレンス件数	210 件	入院時支援加算	146 件
連携施設（事業所）訪問	延 57 施設	介護支援連携指導料	421 件
退院支援看護師対応患者数	延 1,553 人	退院前訪問指導料	2 件
		退院後訪問指導料	29 件

4. その他の活動内容

- 1) 退院支援看護師等連携会議（大東・千厩・磐井）：年 3 回実施
- 2) 県南地区退院支援看護師等連携会議：29 年度より年 1 回開催
- 3) 地域医療福祉連携室として、顔の見える連携を目的とした連携施設（事業所）訪問
- 4) 一関市医療と介護の連携連絡会への参加
 - ①「幹事会」出席（医師/看護師/事務）：年 3 回
 - ②「医療と介護の連携マニュアル」運用会議への参加：随時
 - ③「主催研修会」への参加及び講演：テーマ「退院調整について」
- 5) 地域連携パス検討会議への参加
- 6) 一関在宅緩和ケア連携ネットワーク（IZAK）会議への参加
- 7) 受け持ち看護師や院内多職種、在宅スタッフ・施設職員と連携し、必要なケアが継続できるよう各種調整・支援を行う

在宅酸素・人工肛門造設患者・CV ポート管理など医療依存度の高い患者の増加、少子高齢化、認知症の増加、老々介護、独居、8050 問題（80 代の親／50 代の引きこもりの子）等の時代背景からも退院困難患者が増える事が予測される。そのため、早い段階から退院後の生活を見据え、患者が安心して退院出来るよう院内外の多職種と連携しながら、入院前から早期に介入し、入退院支援が行えるよう活動している。

【医療福祉相談室】

主任医療社会事業士 中村 由佳

1. 部門の紹介・概要

医療福祉相談室は、「社会福祉の立場から、患者・家族のかかえる経済的・心理的・社会的問題の解決調整を援助し、社会復帰の促進を図る（医療ソーシャルワーカー業務指針より）」業務を行う。医療社会事業士 4 名（正規職員 3 名、臨時職員 1 名）で構成されている。

2. 活動実績

- (1) 平成 30 年度相談対応状況 延べ件数 9,970 件

1. ケースの件数											
区分	実件数			取扱い件数	打切ケース						
	継続	新規	合計		解決	中断	諸機関へ紹介	合計			
累計	(1939)	(568)	(2507)	(4052)	(515)	0	0	(515)			
	2247	582	2829	5022	645	2	70	717			

2. 問題別件数											
区分	経済		医療・福祉諸制度	医療・□保健等	環境				退院・社会復帰	その他	合計
	医療費	生活費			心理・適応	院内・付添	家庭内	職場・学校			
累計	(248)	(94)	(1394)	(1964)	(148)	(76)	(290)	(11)	(2246)	(130)	(6601)
	237	109	1293	2422	432	71	722	60	2886	218	8450

3. 援助の内容										4. 援助の方法						
区分	諸制度の手続き指導	情報収集・提供	方針協議	心理的援助	連絡・調整	施設機能の説明	関係機関への紹介	その他	合計	区分	面接	訪問	電話	文書	ケースカンファレンス	合計
	245	4264	1623	521	1817	34	132	30	8666		10433	9	3053	110	652	14257

5. 新ケースの紹介経路				6. 一般相談	
区分		累計		累計	
本人		(10)	15	(4015)	
家族		(42)	33	4948	
院内より	医師	(69)	77		
	看護師	(360)	357		
	医事職員	0	5		
	その他院内職員	0	4		
	ワーカー発見	0	12		
院外より	行政機関	3	10		
	他医療施設	(10)	14		
	福祉施設	(74)	53		
	学校・職場	0	0		
その他		0	2		
合計		(568)	582		

7. 退院支援カンファレンス取扱件数	
累計	
6804	

(2) 患者支援体制（患者サポート体制充実加算）関連業務

患者支援センター設置に伴い、平成30年7月より相談窓口変更。窓口対応を医療社会事業士3名の他、看護師5名、医事経営課長1名で担った。

- ① 医療相談カンファレンス（毎週水曜日開催）：計 51回
- ② 地域医療福祉連携室運営委員会医療相談部会：年2回開催

(3) がん相談支援センター業務

当院の患者・家族問わず地域住民等から、がんの標準的治療法等、治療に関する一般的な情報提供、セカンドオピニオンや療養生活に関する相談等に応じ、支援を行う。

センター内のがん専門相談員5名体制。専従；医療社会事業士1名、専任；がん専門看護師1名、兼任；医療社会事業士3名の構成。

- ① 平成 30 年度がん相談対応状況：延べ件数 550 件
- ② 岩手県緩和ケアテレカンファレンス参加：11 回
- ③ 一関市在宅緩和ケア支援ネットワーク会議参加：毎月 1 回
- ④ 東北がんネットワークがん患者相談室専門員会出席（仙台）：1 回
- ⑤ 平成 30 年度第 1 回岩手県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会出席
- ⑥ 平成 30 年度岩手県がん相談支援センター相談員研修会 企画運営・参加（盛岡）
- ⑦ がん患者家族サロンこころば講演会講師
- ⑧ リレーフォーライフへの参加
- ⑨ 岩手県立図書館「知っていますか？がん相談支援センター」パネル展示・啓発

（4）その他の活動

- ・院内各種委員会、チーム活動、カンファレンス参加
- ・脳卒中地域連携パス症例検討会、大腿骨地域連携パス症例検討会：年 3 回
- ・県南地区入退院支援看護師等連携会議：年 1 回
- ・一関西部居宅介護支援事業所協議会との実務協議
- ・一関地区母子保健会議：年 1 回、栗原市母子保健連携会議：年 1 回
- ・地域ケア会議（一関児童相談所）
- ・医療社会業務検討委員会出席：年 3 回
- ・平成 30 年度新任主任職員研修会参加
- ・平成 30 年度一般職員初級課程研修参加
- ・平成 30 年度医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修参加（国立保健科学院）
- ・日本ホスピス緩和ケア協会 2018 年度年次大会参加（東京）
- ・相談支援センター相談員基礎研修（3）の参加（国立がん研修センターがん対策情報センター）
- ・高齢者虐待対応研修会参加（一関保健センター）
- ・県立病院医療社会事業士会総会・研修会、自主学会参加
- ・南部ブロック医療社会事業士研修会参加（県立大船渡病院）
- ・一関高等看護学院講師
- ・県立病院医療社会事業初任者研修講師
- ・一関第一高等学校附属中学校進路選択セミナー講師
- ・岩手県医療ソーシャルワーカー協会研修会講師
- ・2018 年度岩手県社会福祉士会実践研究発表会にて実践研究発表
- ・連携施設訪問：月 1 回
- ・大崎市民病院・佐久医療センター視察

<平成 30 年度の重点的取組項目として>

- ・患者支援体制（患者サポート体制充実加算）の見直し
（患者支援センター設置に伴い、県立磐井病院『患者支援相談体制』運営要綱を制定、よりよい患者支援体制整備に努めた。）
- ・相談・連携しやすい環境づくりに向けた地域の関係機関へのアンケート調査実施
- ・社会資源情報データベース作成
- ・認知症ケアサポートチームへの参画・活動実施

今後も、利用者と信頼関係を構築し主体性を尊重した相談援助を行うとともに、地域包括ケアシステムの推進に寄与出来るよう院内多職種や地域の関係機関と連携を図りながら活動してまいります。

【地域連携室】

主査 長倉 学

1. 部門紹介・概要

紹介患者にかかる文書でのやり取りや、医療・介護における外部団体・関係機関との連絡調整に携わっており、その他講演会・研修会の企画や広報関係等も担当し、地域医療福祉連携室の中のいわゆる「連携事務」全般を担う。

業務や使用システムの都合上、事務：医事経営課の室内で業務を行っており、医療福祉相談室(MSW)や入退院支援室(看護師)とは別室となっている。

正規職員 3 名・臨時職員 1 名（医事経営課再掲）及び紹介・予約センターに従事する医事委託職員 5 名で構成されている。

2. 主な業務内容

- (1) 受診・転院などの連絡調整
- (2) 外部団体・機関・施設等との連携
- (3) がん拠点病院・地域支援病院にかかる関係事務
- (4) 各種研修会・講演会等の企画調整
- (5) 広報・ホームページ・年報作成

3. 活動実績

<地域・院外との連携>

内容	日程	回数	参加者等
一関市医師会症例検討会（医師会との共催）	毎月第 2 火曜日	11 回	計 103 名
第 11 回両磐地域緩和ケア医療従事者研修会 （一関市医師会との共催）	12/1（土）	年 1 回	15 名

一関市医療と介護の連携連絡会			
①幹事会：出席（医師・看護師・事務）	不定期	年3回	—
②研修会の企画開催（市との共催）	10/28（日）	年1回	101名
一関在宅緩和ケア支援ネットワーク （IZAC：アイザック）定例会議 ※事務局	毎月第3火曜日	11回	計277名
岩手緩和ケアテレカンファランス （岩手県がん診療連携協議会共催）	毎月第3月曜日	11回	計110名
両磐地域連携パス検討会			（症例数）
①脳卒中地域連携パス	不定期	年3回	3件
②大腿骨頸部骨折地域連携パス	不定期	年3回	82件
岩手県がん診療医科歯科連携協議会：出席 （医師、事務）	不定期	年1回	（症例数） 71件

<当院の取り組み>

内容	日程	回数	参加者等
地域医療支援病院にかかる 「地域医療支援委員会」の開催（外部委員出席）	4半期毎	年4回	
がんセンターボードミーティング（県内合同含む）	毎月1回	13回	計133名
どこでも医療講座（職員の出前講座）	不定期	19回	計432名
がん患者・家族サロン「こころば」			
①サロン開催	毎週月・火・金	139回	計299名
②よろず講演会	年3回	4回	計96名
③開設6周年「桜町中学校合唱部コンサート」	10/25（水）	1回	—
広報誌発行			
①連携いわい（連携医療機関・施設向け）	（No.20～23）	年4号	—
②和・いわい（一般市民・来院者向け）	（No.15～18）	年4号	—
平成29年度病院年報発行	H30.11月		—

総務課

総務課長 熊原 健一

1 部門の紹介・概要

総務課は、総務係、管財係及び臨床研修センターで構成され、正規職員 10 人、臨時職員 9 人（臨床研修センター配置、図書室配置、運転手兼作業手及び電話交換手を含む。）の 19 人体制で業務を行っています。

【総務係】

給与関係、経理関係、賃金・報酬関係、旅費関係、福利厚生関係などを担当

【管財係】

資産関係、材料関係、修繕関係、委託・保守関係、購入関係などを担当

【臨床研修センター】

臨床研修医関係、医局関係、医学生見学などを担当

2 主な行事・出来事

(1) 進路選択セミナー

8月3日、高校生に医師、看護師及びその他医療職の業務を知ってもらうため、一関市内の高校2年生を対象とした進路選択セミナーを行った。

12月8日には、一関一高附属中学校2年生を対象とした進路選択セミナーも行った。

(2) 両磐地域災害医療（情報収集・伝達）訓練

11月6日、一関保健所と災害医療の情報収集及び伝達訓練を行った。当院は基幹病院及び災害医療コーディネーターとしての役割の確認や衛星携帯電話を活用した情報伝達訓練、広域災害救急医療情報システム（EMIS）の入力訓練などを行った。

(3) その他

6月14日、15日 県監査委員事務局による予備監査

7月24日 保健所立入調査

7月25日 医療局開庁記念病院対抗球技大会 南部地区大会

8月4日 一関夏まつり くるくる踊りに参加

9月15日 医療局開庁記念病院対抗球技大会 県大会

9月16日 漏電検査

12月20日 磐井病院・南光病院合同防火防災訓練

1月8日 両磐地域県立病院運営協議会

3月19日 磐井病院・南光病院合同防火訓練

医事経営課

医事経営課長 鈴木 志津香

1. 部門の紹介・概要

平成 30 年度は正規職員 12 名、臨時職員 8 名、時間制職員 1 名の 21 名体制で業務を行いました。

2. 活動内容

(1) 病院経営への参画

毎月開催される経営部会、病院運営連絡会議及び診療運営委員会へ資料提供や診療報酬関係情報のグループウェアへの掲示など適時適切な情報発信に努めました。

また、平成 30 年度から原価計算による経営分析を実施することを目的に経営支援システムを導入し、収益改善に向けた分析やクリニカルパス見直しの提案を行いました。

(2) 新基準届出に係る取組み状況

収入確保の取組みとして「総合入院体制加算 3」取得に向けて、診療情報提供書・添付加算算定率向上へ取り組みました。医局会・経営部会等での情報発信を初め、医師事務作業補助者の活用により算定率の向上に努めました。次年度も引き続き取組みを継続し、早期の届出に向けて取り組んでいきます。

(3) 地域連携の強化

地域の医療施設との連携を強化するため、平成 31 年 3 月現在延 57 箇所の連携医療施設を医師、看護師、医療社会事業士などと共に訪問し意見交換を行いました。

また、地域住民への啓蒙活動として各地域へ出向き様々な演題で講演を行う「どこでも医療講座」を 19 回実施しました。

その他、一関市と共催で毎年実施している「医療と介護の連携連絡会」において認知症と地域支援と題して研修会を行いました。

組織体制として、患者支援センターの立上げを行い、入退院支援室・医療福祉相談室・地域連携室が一体となって業務を行うよう組織体制を整えました。今後も入院支援を予定入院患者全体へ拡大するなど患者支援に向けて取り組んでいきます。

(4) 個人未収金への対応

個人未収金管理については、24 時間会計、コンビニ収納、救急会計のクレジットカード払いの積極的活用等医事業務委託職員と協力し発生防止及び支払いやすい環境の整備に努めました。

また、平成 29 年 5 月から全ての県立病院で未収金の回収促進と収納事務の効率化を図ることを目的に弁護士法人と委託契約を締結しました。

これらの取組みを行い回収に努めましたが、平成 31 年 3 月末過年度個人未収金残高は前年同月より 34 万円程度増加となっています。

(5) 査定減対策への対応

査定については、全件について医事業務委託職員と分析を行い、査定点数にかかわらず積極的に再審査請求を行いました。

査定率は医保(31年2月末累計)0.20%(前年比+0.08%)、国保(31年1月末累計)0.16%(前年比+0.07%)となっています。

(6) 救急トリアージシステムの運用

救急部門の業務軽減等のため、平成28年5月から救急トリアージシステムの導入及び運用を開始し、平成29年度に電子カルテとの連携など必要な改修等について検討することとしていましたが、その後検討及び調整を図り計画どおり改修等を終了し平成29年7月から運用開始しています。

(7) 保安専門員の採用

近年、増えている暴言・暴力、威圧的な態度などトラブルを起す患者への対応のため、平成27年4月から保安専門員(警察官OB)を1名採用しました。患者の療養環境、職員の安全・安心の確保に貢献しています。